



開倫塾ニュース 4 月号御送付の御案内

古典に親しみ、学ぶ力を身に付けよう
- 大不況下の学び方を考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：今月の開倫塾ニュースの巻頭言は、古典のすすめですね。

A：(林明夫：以下省略)その通りです。念のためこの塾長通信にも掲載いたしますので、ゆっくりともう一度お読み下さい。

御参考

次の文章は、開倫塾ニュース 2009 年 4 月号の巻頭言です。御参考までに、この塾長通信にもお載せいたしました。

開倫塾ニュース2009.4月号巻頭言

古典を毎日「音読」し、学力の基礎を身に付けよう
- 一生役に立つ学力の基礎は「古典」 -

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：古典を「音読」すると、学力が身に付くのですか。

A：(林明夫。以下省略)「古典」とは、古い時代にでき、現在まで何らかの価値が認められてきた本を言います。各国にはおのおのの古典があります。日本では、「古文」や「漢文」と呼ばれるものが「古典」と言えます。

日本に生まれ、日本で生活している人には、日本の古典である「古文」と「漢文」を毎日少しずつでも「音読」すること(声に出して読むこと)を私はお勧めしたい。

古典は、すべての教科や日本人としての生活の基礎となるものだからです。特に、教科書に出てくるような「古文」や「漢文」は、毎日「音読」することが学力向上の上で役に立ちます。

Q：例えば、「漢文」はどのように「音読」すればよいのですか。

A：原田種成先生は、御自分の旧制中学校時代の勉強方法を振り返り、音読の方法を次のように示し

ておられます。「音読するには、原文に返り点だけがあり、書き下(くだ)し文がわきに添えてある本を用い、書き下し文を栞(しおり)などで押(おさ)え、読み方のよくわからないところや読めない字があると、栞をあげて下を見る。つまり書き下し文が側(そば)にいる先生の役をするのである。そのようにして、一節を書き下し文を見ずに全部すらすらと読めるようになって、次の節に進む、というようにして読み進めた。

さらに翌日には、前日に読んだところがつかえずに読めるかどうか確かめてから翌日分の節に進んだ。これが私の漢文読解力の基礎になったと思っている。」(P.38)

*原田種成著「漢文のすすめ」新潮選書、新潮社版 1992年9月15日刊より引用。

すらすら読めるようになった古典の文章は、気に入ったところだけでも何も見ないで口をついて言えるようにしておく、学校時代だけでなく何歳になっても忘れないものです。

Q：どのような「古典」を音読したらよいのですか。

A：中学校や高校の学校の教科書に出てくるような「古文」や「漢文」を、意味を確かめながら、まずは音読することをお勧めします。もしできれば、図書館や書店でその単行本を探して全文を手元に置き、意味を確かめながら少しずつ「音読」することをお勧めします。そして、気に入った文章は、何も見ないですらすら言えるまでにすることです。

図書館で借りた本は返却しなければならないので、気に入ったところはノートに「書き抜く」こと、そして、書き抜いた文章をすらすら言えるまで「音読」することも忘れてはなりません。

Q：なぜ「古典」を「音読」すると学力が身に付くのですか。

A：これからの世の中は、「知識が基盤になった社会(知識基盤社会)」です。目の前で起こっているものごとについて、一体何が問題なのか、その原因は何なのか(なぜそうなっているのか)、とりあえずどうしたらよいのか、ゆくゆくはどうしなければならないのかなどを自分の頭で考え、問題の解決をしなければならない時代です。

深くものごとを考え、自分の創造力を発揮させるためには、ことばや考え方の本当の意味をよく「理解」した上で、自分の考えを自分のことばや表現方法で他人に伝え続けなければなりません。日本の古典である古文や漢文は、そのときにとても役に立ちます。日本の古典だけではなく、いろいろな国の古典もとても役に立ちます。

Q：他の国の人たちも、古典を学んでいるのですか。

A：どこの国や民族にもその国や民族の古典があり、心ある学校では古典が大切にされて、先生方も熱心に古典を指導しています。そこで学ぶ人々も熱心に古典を学んでいます。

社会の指導者となる人ほどしっかりとした考え方を持つことが求められますので、古典をよく学んでいます。

Q：日本の指導者はどうですか。

A：旧制中学校(第二次世界大戦前の中学校)で学んだ人々は、古典をよく学び身に付けていたようですが、戦後は、高校での古文や漢文の学習時間がどんどん少なくなっているのです。古典を十分に学んでいる人も少なくなっているようです。

Q：どうしたらよいのですか。

A：日本の学校では古文や漢文などの古典をあまり教えなくなりましたので、そのことをよく「自覚」した上で、社会のリーダーを目指す人は自分で古典を学ぶしかありません。ただ、幸いなことに、日本には表現の自由の一つとして「出版の自由」があり、日本国憲法で保障されていますので、図書館や書店には古文や漢文など「古典」と呼ばれる本が山ほど並んでいます。

人生は長く、また、健康にさえ気をつければ 100 歳以上まで生きられる国に日本はなりませんでしたので、あまり焦(あせ)ることはありません。一生をかけてじっくり古典を読み込んで下さいね。

Q：リーダーが読むべき本として、これぞという古典を何冊か紹介して下さい。

A：中国の唐の時代の基礎を築いた太宗という指導者の教えを記した「貞観政要(じょうがんせいよう)」がお勧めです。明治書院刊の原田種成著の上下本を手元に置き、意味を確かめながら少しずつ「音読」することです。北条政子、徳川家康、明治天皇はじめ日本のリーダーのテキストとなったのが「貞観政要」です。

佐藤一斎著「言志四録(一)～(四)」(講談社学術文庫刊)も、日本のリーダーとして読むべき本と考えます。

橋本左内(さない)が元服(げんぷく)を迎えた 15 歳の時に書いた「啓発録(けいはつろく)」(講談社学術文庫刊)も読んで頂きたい古典の一つです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：本当のことを言うと、皆様に御紹介したい古文や漢文など「古典」はもっともっとあるのです。これからも、少しずつ御紹介させていただきます。皆様の保護者や知り合いの方、先生方も、皆様に紹介したい古典をいくつかお持ちかもしれません。教えて頂いたら「素直」な心でその古典を紐解(ひもと)くことも、皆様の人生を開くきっかけになりますよ。

ちなみに私は、原田種成先生の明治書院刊「貞観政要」(上下)を昭和女子大学副理事長の前原金一先生から教えて頂きました。「言志四録」の素晴らしさは、弁護士の高井伸夫先生から教えて頂きました。

皆様も、身近な素晴らしい人から素直な心で教えを受けて下さいね。

- 2009 年 2 月 15 日記 -

Q：塾長は、なぜこの時期にこの文章をお書きになったのですか。

A：昨年来から私の書いた開倫塾ニュースの巻頭言やこの塾長通信をお読みの方には、何回も申し上げることになり恐縮ですが、現在は「大不況」です。大不況ではありますが、この不況を嘆き悲しんでばかりはいられません。いくら嘆いても、また、悲しんでも、当分の間は、日本から、また世界からの不況は消えてなくなることはありません。ただし、手を拱(こまね)いて絶望のふちに立つ必要もありません。

大不況の中ではありますが、皆と手を携え合いながら力強く生きて、生きて、生き抜くことが大切です。そのような思いで、少し難しいテーマではありますが、では一体どうしたらよいかを塾生、保護者、地域社会の皆様とご一緒に考えさせて頂きたくて書いているものです。

今月のテーマは「古典を読もう」です。

Q：なぜ世界的な大不況のこの時期に「古典を読もう」なのですか。

A：今は 3 月ですので、塾生の皆様は、来月の今頃は新しい学校に入学なさったり、新しい学年に進級されたり、学校を卒業する方は新しい職場での仕事や新しい生活をスタートさせているものと考えます。

ただ残念なことに、世の中は日本だけでなく世界中が「大不況」に襲われているため、気持ちがどんどん暗くなっていくことも予想されます。そのような中でも新しい学校、新しい学年、新しい社会での生活に入るので、決して自分を見失うことなく、苦しいとは思いますが、今やらなければならないことに真正面から立ち向かって頂きたく思います。

そのような時に力を与えてくれるのが、「古典」です。日本や世界各国の人々によって読み継がれてきた「古典」には、苦しい中で我々に力を与えてくれるエネルギーがたくさん含まれています。昔の話ばかりなので少し読みにくいかもかもしれませんが、我慢しながらじっくり腰を落ちつけて、意味を確かめ考えた上で一語、一語噛(か)みしめるように声を出して読めば、必ず我々の血や肉となります。

Q：どのような古典を読んだらよいのですか。

A：開倫塾ニュースの巻頭言でもお話しましたが、まずは学校の教科書で紹介されている古典をお読みになることです。そして、少しでもその古典に興味をもったら学校の図書室や図書館に出掛け、その単行本を探し出して、じっくり読んでみるとよいでしょう。お小遣いに余裕があれば本屋さんに行き、自分用にその本を買い求めることができれば最高ですね。(私は、古本屋さんをよく利用しております。)

- ・学校の図書室や図書館や書店でよく探すと、「文庫」や「新書」の中でとても読みやすい「古典」がたくさん出版されていることにお気付きになると思います。
- ・国語の参考書コーナーにも、わかりやすく記された「古典」がたくさんあります。ビデオやマンガによる古典の紹介も、古典に親しむのに役立ちます。
- ・新聞を毎日丹念(たんねん)に読んでみると、日本や世界の古典を紹介した記事がたくさん掲載されていることにお気付きになるでしょう。TV やラジオでも「古典」をテーマにした番組がたくさん放送されています。
- ・皆様のお住みなっている市や町、県にも、古典にゆかりのある「名所」・「旧跡」といわれるところもあると思います。例えば、開倫塾の本部がある栃木県足利市には、中世日本の学問の中心地であった「足利学校」の遺跡があります。足利学校には、学問を志す僧が三千人も集まり、儒教や易学を学んだと伝えられています。孔子の教えを儒教といいますので、足利学校では孔子の教えを説いた「論語」の勉強がとても盛んに行われました。足利学校のお土産として、論語の大切なところを書き下し文の形でまとめ、訳をつけた「論語抄」があるほどです。「論語抄」は、私が足利高校在学中に 3 年間漢文を教えて下さった先生で、今は足利学校の研究員をなさっている須永美知夫先生が編集なさったものですので、とても身近に論語を学ばせて頂いております。
- ・皆様にも、身近なところで「古典」に少しでも関係のあるところを気軽に御訪問なさり、「古典」に親しむことをお勧めします。
- ・松尾芭蕉が書いた「奥の細道」の辿(たど)った跡などは、最も興味深いものかもしれませんね。

Q：文庫本や新書本の話が出ましたが、文庫や新書は読んだほうがよいのですか。

A：今の文庫や新書は、何十年か前とは違い、文字も大きく、仮名(かな)もよくふられ、また、文章もとても読みやすくなっていますので、自分のお気に入りの文庫や新書を見つけ、シリーズでどんどんお読みになるとよいでしょう。

私は高校生の頃、現代国語の倉沢先生の御指導で、岩波文庫の夏目漱石や志賀直哉(しがなおや)の作品を随分読みました。社会が好きだったので、毎週1冊とまではいきませんでした。岩波新書も高校3年間で100冊以上は読んだ記憶があります。

Q：古典を読むことは、世の中に出て役に立つのですか。

A：現代は、知識が基盤となった社会、つまり「知識基盤型社会」です。ここで求められるのが、学校などで勉強して身に付けた「知識」と、インターネットなどで得られる「情報」と、仕事などを通して身に付ける「技術」の3つを、相互作用的にうまく組み合わせながら活用できる能力です。

知識や情報、技術を理解し身に付けるには、ものごとの本質を自分の力で考えることが求められます。深くものごとを考えるときには、古典を学ぶことで身に付けた本格的な思考能力が求められます。

また、現代は、世界の人々と自由に交流することが現実となったグローバル化した社会です。ここでは、多様な集団の中で交流する能力が求められますが、その前提は、自分とは何か、自らのアイデンティティを持つことです。同時に、日本とは何か、東洋とは何かについての確固たる信念を持つことが求められます。その際に、日本の古典、東洋の古典を時間のあるときにじっくりと読み込むことがどれほど役に立つかわかりません。世界のリーダーは皆、自分の国や民族の古典を小さい頃から読み込み、大人になっても毎日のように読み続けているからです。

他の国や他の民族の人々のことを理解する前に、自分の国や自分の民族のことを十分に理解し身に付けることが大切です。自分自身が何者であるかがわかってはじめて自分以外の人のことがわかるのと同じように、日本人とは何か、東洋人とは何かわかってはじめて、日本人以外の民族、東洋以外の地域の人々のことが理解できるからです。

その意味で、日本に生まれ育ち、住んでいる我々は、日本の「古典」を十分「理解」した上で身に付けるべきです。日本という東洋に生まれ育った我々は、東洋の古典も「理解」し、少しでも自らのものとして身に付けるとよいと私は考えます。

そこで、私が皆様にお勧めしたいのは、日本で普及した中国の漢文と仏教の本を古典として親しむことです。

日本人は非常に優れた民族で、仏教や中国の古典を文字通り命懸けで大変な思いをして日本に取り入れ、日本人の言葉・文字でその考えをまとめ上げ、様々な形で「古典」として現在にまで伝え続けました。

「多様な集団で交流する能力」を身に付ける前提として、日本や東洋の古典をお読みになることをお勧めします。同時に、様々な国家や民族の古典も積極的にお読みになると、本質的な理解が深まります。一人ひとりの人間には、その人の生まれ育った環境があります。その環境はその国や民族の長い歴史によって形づくられたものです。その本質的なものが、多くの古典には書き記されています。古典を読むと、なぜこの人はこのように考えるのだろうかと理解することが少しずつできるようになります。相手が大切にしているもの・価値観を、同じ古典を読むことにより共有するこ

とができます。

他の国や民族の「古典」を読みながら、たとえ少しずつでも古典の背景になったその国や民族の歴史を知る努力をしたり、たとえ少しでもその国や民族の「ことば」に親しむことで、相互の理解が深まります。

Q：なるほど、「古典」を読むことで、2つの点で社会に出てから役に立つこともあるのですね。役に立つことはまだありますか。

A：社会に出て最も必要な能力の3番目は、「自律的に行動する能力」です。自分自身を律する、コントロールしながら活動する能力が最も求められます。

そのためには、「高い志(こころざし)」、つまり自分は自分のためだけではなく社会のためにも生きるのだ、人々のお役に立つことで自分自身を生かすのだという考え方も大切です。自分を大切にすると同様に、「公共のことを考える精神」も大切だということですね。

今回のこの世界的大不況も、よく考えれば経済がおかしくなることがわかっていながら、自分さえよければよいと、何十億円、何百億円も短い期間でもうけようとした人々がこの世の中に存在したから発生したといってもよいと私は考えます。

ものごとを行うときには、どんなことにもすべてルールがあって、やってよいこと、悪いことがあります。たとえ法律には書いてなくても、よく考えれば多くの人々を傷つけることは人間としてやってはいけないのです。生活のために仕事をし、お金を得ることは尊いことですが、他人を傷つけてまで、それも多くの人々を苦しめてまで何十億円、何百億円というお金を手に入れようとすることは許されるものではないと私は考えます。

「高い志」をもちながらルールの中でプレイをすること、自分自身を律しながら自律的に活動することが求められるのが現代社会です。

日本や東洋、世界各国、いろいろな民族の古典を読みますと、このことがよく書いてあります。特に、社会や地域のリーダーになる人の心構えを記した古典は、孔子の教えを記した「論語」をはじめ数多く存在します。現代にとって最も必要な「高い志」と「自律心」、この2つを古典から学んで下さいね。

日本は、世界でも1、2を争う超長寿、つまり長生きできる国です。塾生の皆様も、健康に注意さえすれば100歳以上まで生きられる可能性の高い国です。子どもが少なく、60歳以上の人の多い国・社会を「少子高齢化社会」といいます。子どもが少ないことは困りますが、多くの人々が80歳、90歳すぎまで生きられる国・社会は素晴らしいものと、私はこの日本を高く評価しています。

問題は、どのように生きるかです。折角、注意さえすれば100歳以上まで生きる可能性の高い日本に生まれ育っているのですから、「よく生きる」ことを国民全員が考えたら日本も素晴らしい国になると私は考えます。「よく生きる」とは何か。自分のことを大切にすると同時に、みんなのこと、社会のことも大切に生き方であると思います。では誰でも「よく生きる」ことができるのかといえば、そうとは限りません。「よく生きる」ためには、それなりの勉強が大切です。

学校で不足していると自分で考えた勉強を一生を通じてやること、新聞を毎日なめるように読み続け、現代の問題を知る努力をすること、何歳になっても「志高く生きる」ために「古典」を少しずつでも読むこと、多くの人々、特に若い人々と出会い、意見を交換する機会を積極的にもつ努力をすることなど、いろいろ考えられます。見聞を広めるために、トコトコ歩いているいろいろなところ

に出掛けることも大切です。

現在は、やさしくていねいに書かれた「古典」がたくさん出版されていますので、何歳になっても「古典」に親しむことが可能です。しかし、中学校や高校で学ぶチャンス(機会)のあるときに、古典や漢文に十分親しみ、定期テストや入学試験などを上手に活用して基本的な勉強を学生時代に済ませておくことも大切です。できれば高校時代に古文や漢文を読む基礎を身に付け、高校卒業後、大学や短期大学、専門学校に入学したら、自分のお気に入りの古典を本格的に読み込んだ上で社会に出ること。社会に出てからも、35歳まで少しずつでも古典に親しみ、35歳から45歳までの11年間にもう一度古典を何冊か本格的に読み直して自分自身のものにし、50歳代を迎えることをお勧めします。

Q：随分、道は長いんですね。

A：実は、私は何年か前から東京にある経済同友会という経済団体に入らせて頂き、いろいろな委員会に参加させて頂いております。世界や日本を代表するような経営者や学者、政府や自治体、NGO、NPOの代表の方々と毎日のように身近に接するうちに、少しずつ気付いてきたことは、にじみ出るような「教養」の大切さです。会社の規模、政府での地位、年齢、性別、まして出身などに全く関係なく、まるで磁石(マグネット)のようにとても引き付けられるような方々に備わっている共通の素晴らしさは、ほとぼしるような「教養」です。このほとぼしるような「教養」はどこから出るかといえ、一所懸命に仕事や研究、社会活動をした結果もあるかもしれませんが、自分自身の「古典」をもち、それを読み込み、自分なりに身に付けた成果であると私には感じられます。

世界や日本が100年に一度の大不況という今日のような時こそ、一日に一回はどんなに短い時間であっても静かに机に向かい、今日一日を振り返ると同時に、自分のお気に入りの「古典」をたとえ1行でもゆっくり読むこと、時々「音読」してみることをお勧めいたします。

以上

- 2009年2月18日記 -

原田種成著「私の漢文講義」大修館書店 1995年10月1日刊を読む

朗読・暗誦のすすめ

1. 漢文の訓読は文語文で読むものであるから、その口調に習熟するためには、朗読・暗誦によらねばならない。漢文の教科書や参考書には送り仮名がついているから、そのとおりに読めば、一応の読みはできるが、朗読・暗誦によって読み方に習熟していないと、ごく簡単な類型の熟語すらも訓読することができない。
2. 近ごろの大学生は高校時代にそうした経験を持たないものが多いのは遺憾である。一人二人、生徒を指名して読ませたあと、教師が一度読んだだけで読み終わらせるというような授業では漢文の読みの学習としては不十分である。必ず教室の全員が声をそろえて音読する斉読(近ごろは群読というようである)をして読みを完成することが必要である。斉読させれば全員の生徒が毎時間声を出して読むことができる。教師の範読もまた朗々と読んでやる必要がある。漢文の授業をただ解釈をただで能事^{おわ}畢れりと思っ^てはならない。生徒が声を出してすらすらと読めるようになるまでにしなければ漢文の授業にはならない。
3. その上に暗誦を課すことも必要である。詩や韻文の類はぜひとも暗誦をしなければならない。暗誦をするには声を出さなければできない。自分の声を自分の耳から入れることが肝要である。最近心理学者が、受験勉強などの場合、黙読よりも音読したほうがよく覚えられるという研究調査の結果を報告していた。
4. なお、生徒に暗誦を課したならば、教師も暗誦し、生徒と同様に本を伏せて読んでほしい。私が旧制中学の教師をしていたとき、生徒に負けないように学校の往復に一心に暗誦し、赤壁賦、岳陽樓記、柳子厚墓誌銘、長恨歌、琵琶行などを暗誦したものである。教師は同じ課を何教室でも教えるのだから、相当に長い文でも暗誦することは容易である。
5. 暗誦をすると豊富に語彙の習得ができ、文章の照応も身につけて、作文の力が高まる効果があることも生徒に知らせて、暗誦に力を入れさせるのがよい。古文の場合も、『徒然草』、『枕草子』、『源氏物語』、『平家物語』、『方丈記』など代表的な古典十種類の冒頭を暗誦すると、古文に強くなることはよく言われていることである。
6. 戦後の教育で、古典がないアメリカの教育学者の言うことを無批判に鵜呑みにし、暗記は理解を妨げるといって、指導要領に朗読も暗誦も課さなくしてしまったが、戦後の日本語の乱れの最大の原因は朗読と暗誦を廃したところにある。

7. 世界で最も自国語を愛する国といわれているフランスの小学校について、鹿住稔子氏は、

時間割はきまっていないが、カリキュラムや科目はちゃんとある。ただし、正課の三分の二までが国語である。読解、書き方(正書法)、書きとり、作文、口語表現法、文法、活用の暗記、詩の暗誦、というふうに徹底した自国語教育がおこなわれる。

読本もそうだが、フランスの小学校では本物しか子供に与えない、という印象を強く持った。やさしく書きかえた抜萃を決して与えない。ことに詩は書きかえがきかないし、子供用に書かれた詩というのあまりない。……ヴェルレエヌ、アポリネール、ヴェルハアレン、マラルメなどをじかに、^{なま}生のまま与えるわけである。

“意味はわからなくてかまわない。説明もしない。丸暗記して、リズムや雰囲気をつかめればよい”のだそうである。(『ママのわがまま留学』冬樹社)

8. 先年、朝日新聞に連載された田辺聖子の“^{ふぐるま}文車日記”に「このごろの少女少女に、すぐれた古典の一節を暗誦させないのはなぜでしょうか」といい、暗記した古典が後年になって生き返り生涯の血肉となるとしており、翌日の“天声人語”もそれに賛成していたが、私は、古典の暗誦は、心情的な方面だけではなく、文を書く上に極めて必要であることを強調したい。

9. 今の若い者は意味の通じる文が書けないと言われるが、私はその最大の原因が古典の暗誦を排したことにあると思っている。

10. 暗記は理解を妨げ、創造性の芽をつむというのは、理科や社会科についての問題である。それを無批判に国語教育に持ち込んだことがそもそもの誤りである。古典を暗誦することによって日本語のリズムや文理文脈が自然に身につき、多くの言葉を覚えられる。それによって正しい日本語を使うことができ、覚えた言葉を用いて意味の通る文が書けるようになるのである。

P30 ~ 35

[コメント]

「漢文こそ日本の古典」と漢文教育の重要性を生涯を通じて説き続けた原田種成先生は、朗読と暗誦の大切さをこの文章で強調している。学ぶ者も教える者も大いに参考にすべきと考える。

- 2009年2月14日林明夫記 -

原田種成著「私の漢文講義」大修館書店 1995年10月1日刊を読む

『貞観政要(じょうがんせいよう)』の世界

1. 『貞観政要』は、中国の代表的な帝王学^{たいそう}の書である。「貞観」とは唐の太宗の年号(627-649)で、唐の太宗は中国史上において傑出した大政治家であったばかりでなく、世界史上においても、有数な大政治家の一人であった。
2. 唐の太宗(李世^{りせい}民)は漢末以来 400 余年にわたって戦乱の絶え間がなかった中国全土を平定統一し、唐朝 300 年の文化国家の基礎を築いた。その時代は非常に平和でよく治まった時代であったから「貞観^{じょうがん}の治^ち」と称した。
3. 日本は唐の都の長安に遣唐使、留学生を派遣して高度な学術文化を積極的に採り入れて奈良、平安の文化の華を開いたのであった。その太宗の政治に関する言行を記録した書が『貞観政要』である。
4. 中国では、皇帝は天の意志を体して仁慈の心で万民を愛育しなければならないものであるという、帝王はいかにあるべきかという理念があり、臣下はまた我が天子を理想的な天子にするのが責務であるという考えがあった。これはヨーロッパの皇帝が国民を私有物視していたのとは異なるところであり、帝王はいかにあるべきかという帝王学が中国に発達した理由である。それは儒教道徳に基準を置いたものであった。だから天子は儒教の理想とする皇帝である堯・舜^{ぎょう しゆん}や禹、周の文王・武王を自らの理想とし、臣下は儒教道徳を基準にして、天子の政治に欠失がないようにと一身一家を顧みず、場合によっては死を覚悟して諫^{いさ}めることがあったのである。
5. それゆえ『貞観政要』は、かつては教養人の必読書であり、今日の指導者にとっても有益な内容が多い書である。

P192 ~ 193

[コメント]

「貞観政要」研究の世界的第一人者の原田種成先生の漢文勉強法である「音読」は大いに参考になる。

- 2009年2月14日林明夫記 -

原田種成著「貞観政要 上」明治書院 1995年10月1日刊を読む

創業と守成のための十思とは

1. そもそも〔天下を取ろうとして〕深く憂い悩んでいるときには、必ず誠意を尽くして下の者を厚く待遇するが、志を達してしまえば欲情をほしいままにして人に対して傲慢になります。
 - (1) 誠意を尽くせば胡や越のような遠く隔った人も親密一体となり、傲慢になれば肉親さえも赤の他人となります。
 - (2) 〔民心が離れてしまつては〕いかに厳しい刑罰で取締まり、威怒でおどして恐れふるえさせても、結局は当座の罪を免れることだけを考えて君の仁徳になつくことなく、表面は恭しく従っているようでも心の中では服していません。
 - (3) 民の恨みを招くのは事の大にあるのではなく、実に畏るべきは民であります。
 - (4) 舟を載せ浮かべるのも水であれば舟を転覆させるのもまた水で〔あるように、君を立てるのも君を滅ぼすのも民で〕ありますから、よくよく戒慎すべきところであります。
 - (5) あたかも奔走する車を腐った綱で御するようなもので少しも油断をすることはできません。
2. ですから人君たるものは、〔次の十のことについて思うことが肝要でございます〕
 - (1) 欲しいものを見たときには、足るを知ることによって自ら戒めることを思い、
 - (2) 营造しようとするときには、止めるを知って民を安んずることを思い、
 - (3) 高く危いことを思うときには、謙遜して自己をむなしくすることによって自ら処することを思い、
 - (4) 満ち溢れることを思うときは、江や海があらゆる川よりも低いところにおることを思い、
 - (5) 〔狩猟などをして〕遊び楽しみたいときには、三駆を限度とすることを思い、
 - (6) 怠りなまける心配のあるときは、始を慎み終を敬することを思い、
 - (7) 〔君主の耳目を〕おおいふさぐもののあることを心配するときは、虚心に臣下の言を納れることを思い、
 - (8) 讒言をする邪悪な臣があるのを恐れるときは、身を正しくして悪を斥けることを思い、
 - (9) 恩恵を加えようとするときには、喜びによって賞を誤ることがないようにと思い、

(10) 罰を加えようとするときには、怒りによって、むやみに刑を加えることがないように思う
ことをございます。

3. この十思をしっかりと守り、

(1) 人の行いの九徳を大いに弘め、

(2) 才能のある者を選んで任用し、

(3) 善者を選んでその言に従えば、

(4) 智者はその謀計を尽くし、

(5) 勇者はその全力を尽くし、

(6) 仁者はその恩恵を広め、

(7) 信義ある者はその忠節をささげ、

(8) 文も武も争って国家のために奔走いたしますから、

4. 君にあっては

(1) 何事もなさらずして、

(2) 遊行の楽しみを尽くすことができ、

(3) 仙人のような長寿を保つことができ、

(4) 琴をひき鳴らし、

(5) 手をこまねいて何もせず、

(6) 何も言わずとも世の中が自然に治まります。

P46 ~ 47

[コメント]

「創業と守成」、とりわけ最も困難な「守成」のためにリーダーがなすべきこと、してはならないことは何かを考える際に、この「貞観政要」ほど参考になる本はない。まさに「古典の中の古典」と言える。この「十思」を参考に、自分なりの「十思」を考えたい。

- 2009年2月18日林明夫記 -

岬龍一郎著「人生の師を見つけよう - 歴史のなかにキラリと光る人々 - 」

PHP 研究所 2008年12月22日刊を読む

1. 修身齐家治国平天下。格物致知誠意正心(大学)とは

(1) 古の明德を天下に明らかにせんと欲する者は、先ずその前に国を治める。その国を治めんと欲する者は、先ずその前に家を斉える。その家を斉えんと欲する者は、先ずその前に身を修める。

(2) その身を修めんと欲する者は、先ずその前に心を正しくする。その心を正しくする者は、先ずその前に意を誠にする。その意を誠にせんと欲する者は、先ずその前に知を致す。知を致すは物に格るに在り。

【意識】

(1) 遠き昔、英明な徳を天下に明らかにしようとした者は、まず一国の明君としてその国を平安に治めた。一国を平安に治めようとした者は、その前に一家の長としてその家族をよくまとめた。家族をよくまとめようとした者は、その前に自らを律し修めた。

(2) 自らを律し修めようとした者は、それに先だって自分の心を正しくした。自分の心を正しくしようとした者は、さらにその前に自分の意志を誠実にした。自分の意志を誠実にしようとした者は、さらに先だって自分の知識や智恵を極めた。知識や智恵を極める方法は、物事の道理を正しく受けとめることにあった。

P36 ~ 37

2. 儒教が教える5つの徳 - 「仁・義・礼・智・信」(五常)とは -

さて、以上の徳目を現代風にいうなら、「人にはやさしくあれ」「弱い者をいじめな」「人に迷惑をかけるな」「正直であれ(嘘をつくな)」「卑怯なことはするな」「礼儀正しくあれ」「身だしなみを整えろ」「約束を守れ」「時間を守れ」「信用をなくすな」など、まだまだたくさん出てくるはずだ。試みに人が人として守らなければならない徳にどのようなものがあるか、自分で考えてみることも修業になるだろう。

要するに「自分を鍛える」とか「己を磨く」とかいうのは、この徳を日々日常の中で実行することをいう。その意味で『論語』は書物において基本的な人格形成を培ってくれる師といえるのである。

3. 橋本左内「啓発録」の5つのテーマ

1. 稚心を去る
2. 気を振るう(振気)
3. 立志

- 4 . 勉学
- 5 . 交友を選ぶ

この5項目をテーマとして述べたものだが、驚くなかれ、これを記したのが元服を迎えた 15 歳のとき、「立派な大人になるために」と自らを啓発したというのだ。

4 . 鉄舟20訓(山岡鉄舟の訓戒)とは

- 1 . 嘘をいうな。
- 2 . 君の御恩を忘れるな。
- 3 . 父母の御恩を忘れるな。
- 4 . 師の御恩を忘れるな。
- 5 . 人の恩を忘れるな。
- 6 . 神仏と年長者を粗末にはいけない。
- 7 . 幼者を^{あなど}侮るな。
- 8 . 自分の欲しないことを人に求めるな。
- 9 . 腹を立てるのは道に合ったことではない。
- 10 . 何事につけても人の不幸を喜んではならない。
- 11 . 力のおよぶかぎり善くなるように努力せよ。
- 12 . 他人のことを考えないで、自分の都合のよいことばかりしてはならない。
- 13 . 食事のたびに農民の辛苦を思え。すべて草木土石でも粗末にはいけない。
- 14 . ことさらお洒落^{しゃれ}をしたり、うわべを繕^{つくろ}うのは、わが心に濁りあると思え。
- 15 . 礼儀を乱してはいけない。
- 16 . いつ誰に対しても客人に接する心掛けであれ。
- 17 . 自分の知らないことは、誰でも師と思って教えを受ける。
- 18 . 学問や技芸は富や名声を得るためにするものではない。己を磨くためにあると心得よ。
- 19 . 人にはすべて得手、不得手がある。不得手を見て一概に人を捨て、笑ってはいけない。
- 20 . 己の善行を自慢して人に報^{しら}せるな。我が行いはすべて我が心に恥じぬために努力すると思え。

(現代語訳)

P50 ~ 51

[コメント]

本当に大事なことを教えてくれる先人の言葉をまとめた、岬龍一郎先生の新著は、何回読んでも一語一語すべて毎日の生活に参考になる。

- 2009年2月8日林明夫記 -

鎌田茂雄著「正法眼蔵随聞記講話」講談社学術文庫 1987年4月8日刊を読む

悪口をもって人を責めるな

1. 夜の坐禅が終わった後で、道元はつぎのような法話をされた。口ぎたない言葉で僧を叱り責めたり、また過失をあげてそしってはならない。たとえ、どんなにその僧が悪いからといって、道理にかなっていないからといって、理由なく憎しみそしってはならぬ。どんなにその僧が悪いからといっても、僧が四人集まっていれば僧団を作っているのであって、国の重宝であり、最も帰依し、尊敬しなければならないものである。
2. 一山の住持や長老といわれる人であっても、師匠、善知識といわれる人であっても、弟子が不当なことをした場合には、慈悲心、老婆心をもってよく教えて、正道に誘引しなければならない。その時、たとえ打たねばならない者を打ち、叱り責めねばならぬ者を叱っても、相手の過失をいいたて、悪口をいおうとする気持を起こしてはならない。
亡くなった私の師匠である天童如浄和尚が天童山に住持をしていた時の話であるが、僧堂で多くの僧が坐禅をしていた時、居眠りをしている僧を戒めるために、自分のはいている履物で打ち、その非を叱ったが、多くの僧たちはみな打たれることを喜び、その師の行為をほめたたえたのである。
3. ある時、如浄は法堂にのぼって説法したついでにつぎのようにいわれた。
「自分はすでに年をとったから、大衆と一緒に修行するのはやめて、草庵に住して老後を養っていればよいのであるが、自分は衆僧の指導者として、お前さんがたの迷いを破り、仏道を教えるためにこの天童山に住持となっている。だからこそ修行を怠ったり、道理にかなわぬ行ないをする者に対して、呵嘖の言葉をいったり、竹篋で打ったりするのである。これは大へんつつしまなければならぬ恐るべき行為であるが、しかしこれは仏に代わって行なっているのである。どうかお前さん方、慈悲をもってこれを許して下さい」
というと、衆僧はみな涙を流したのであった。
4. このような慈悲心、このような気持をもってこそ、始めて大衆を教化することができる。住持、長老であるからといって、むやみやたらに大衆を支配し、自分の小僧のように思って呵嘖するのはあやまりである。ましてその資格もなく、その立場にもない者が、人の短所をいい、他人の欠点をそしめるのはあやまりである。よくよく気をつけなければならない。
5. 人の欠点を見て悪いことだと思い、慈悲心をもって教化しようと思ったならば、その人が腹を立てないように配慮して、第三者の他人のこのようにいって教え導かなければならないのである。

P.57 ~ P59

[コメント]

人の生き方の中で、人の悪口・人格批判を言わないことほど大切な生き方はない。毎日の生活の中でどう実行することができるか、道元禅師から学ぶことは多い。

- 2009年2月2日林明夫記 -

森有正著「生きることと考えること」講談社現代新書 1970年11月16日刊を読む

経験と体験

1. (1) 体験と経験ということばの使い分けは、私自身、非常に人工的に見えてくることもあるほどです。これは非常に困難な問題ですが、大筋は、私の中に一応つぎのように成立していると思うのです。
 - (2) 人間はだれも「経験」をはなれては存在しない。人間はすべて、「経験を持っている」わけですが、ある人にとって、その経験の中にある一部分が、特に貴重なものとして固定し、その後の、その人のすべての行動を支配するようになってくる。すなわち経験の中のあるものが過去のなものになったままで、現在に働きかけてくる。そのようなとき、私は体験というのです。
 - (3) それに対して経験の内容が、絶えず新しいものによってこわされて、新しいものとして成立し直していくのが経験です。経験ということは、根本的に、未来へ向かって人間の存在が動いていく。一方、体験ということは、経験が、過去のある一つの特定の時点に凝固したようになってしまうことです。
 - (4) だから、どんなに深い経験でも、そこに凝固しますと、これはもう体験になってしまうのです。これは一種の経験の過去化というふうに呼ぶことができます。過去化してしまえば、経験は、未来へ向かって開かれているという意味がなくなってしまうと思うのです。
2. (1) この経験と体験、あるいは変化と変貌との対立は、人間と自然との間にも出ています。つまり、日本ではこういうことがいえると思うのです。
 - (2) この間偶然に I・C・U(国際基督教大学)から三鷹の駅へ来るバスに乗りました。すると、そこにとりなりの神学大学の学生が一人乗ってきて、「隣の神学大学のものです」というあいさつをして、名前はいいませんでしたが、「先生のご本の中に、“日本には裸の自然がない”とありましたが、あれはどういう意味ですか」ときくわけです。「現に、ここにある自然はみんな裸じゃないですか。山もあるし、川もあるし。」
 - (3) 私は、こう説明しました。

日本にある自然は、もう全部、性格と役割——内的性質がきまっている。富士山・江ノ島・三保の松原・九十九里浜、あるいは日本アルプスの槍ヶ岳・白馬・乗鞍・常念、それから、どこどこの何々という山、何々という川、何々の滝——つまり日本の自然というのは、全部が名所の集まりです。全部が名所。だからみんな名所を見に行くのであって、自然なんか見に行きはしないのです。

二見ヶ浦に太陽が出るところが絵にかかっている。みんなが二見ヶ浦の日の出を見に行くのは、そこでその絵を見ようと思って行くのです。また富士山だったら、だれでも、大昔、赤人が「富士の高嶺に雪は降りつつ」と歌ったとき以来の富士山です。日本人はみんな知りぬいている。赤人が歌ったような、あるいは北斎が描いたような形をした山として、日本人みんなの中にはいつている。一万二千尺の高さの未知の自然としてあるわけではない。瀬戸内海——これも全部が名所です。

このように、自然が全部名所だということは、日本の自然は全部体験の対象になっていて、経験の対象になっていないということです。経験の対象はいつも無記名です。これは重要なことです。固有名詞をもったものでも、経験の中では、無記名の要素に分解されてしまう。

- (4) ところが、フランスに行ってごらん下さい。あそこには、そんな名所など一カ所もない。モンサンミシュルが名所だというなら、それはその建物が名所なのです。そこには、長い大きな土地が突き出た海岸があります。ぼうばくとした海岸です。そんなものは名所ではない。自然のままにそこにあるのです。

アルプスでも、南のほうの果てしない丘陵地帯でも、ことに東フランスの原野など、ものすごいものです。自然がことごとく裸のまま露出している。

私がそういうと、その学生はやっと、「少しわかったようです」といいましたが、大事なことは、そういう自然に対しても、経験によって絶えず新しいものとして、人間に現われてくるものとしてそれを把えることです。体験として、自然に接するときは、いつでも自然は名所的なものになる。日本人は体験的に自然に接するのですから、ノルマンディーなら、あそこには牧場があって、たくさん牛を飼っているというので、ノルマンディーの牛を見にやってくる。ロンドンへ行ってロンドン塔を見る。パリへ行ったらエッフェル塔を見る。つまり、日本人は、外国も全部体験の対象にしているのです。出かけるまえに、観光案内書や写真などでもって知っているのと同じ姿を現地で見つけ出せば、それで満足して帰ってくる。ところが経験的に対象に接するならば、たとえば、ノートル・ダムのカテドラルとか、あるいはシャルトルのカテドラルを何十回見ても、何百回見ても、そのたびにそれらは新しい姿であられる。回をかさねるごとに、かえて新しくなってきましたね。

それは、絶えることなく自分も変わり、相手も変わると同時に、自分と対象との触れ合いそのものが、それに応じて深化して、しかも前に認識し、経験したものが、全部その中に蓄積され、それを通して新しい変化を生むからです。だからそれは、一つの変貌です。そうでなければものの深みというものはわからないし、注意力も深まらない。物は絶えず新しい面をあらわしてくれるから、私にとっては、たとえばノートル・ダムは、いつまでたっても名所にはならないのです。

そういうわけで、自然といっても、そう簡単には、日本にも自然があるといえないのです。それはもう、完全に人間の「知覚」(感覚ではなく)によっておおいつくされた自然です。裸の自然なんかどこにも見えない。人間の過去の知覚が全部、日本の自然をピッタリおおっている。私には、そう思われます。

3.(1)ヨーロッパの社会にある秩序というものにたいする感覚というものは、ヨーロッパ人のもつ社会という観念と離すことはできないと思うのです。つまりヨーロッパでは、社会はもちろん個人の集まりではあるが、単なる個人の集合ではなくて、個人を超越している一つの「組織体」です、したがって、社会といたら必ずそこに人間の集団のオーガニゼーションがある。そのオーガニゼーションが、秩序あるいは法ということばで表わされているわけです。ですからその意味で、そういう社会の秩序面においていろいろなことが問題になる。フランスの五月事件はそのことを典型的に示した。それが「教育指導法」という法律として結集して成立した。

(2)それにたいして日本のばあいは、人間が集まれば社会だと思っている。しかし、社会である以上、その人間が一つのオーガニゼーションをつくっていなければいけないはず。しかもその組織体は、法という確乎としたものによって公式に表明されていなければならない。日本のばあひ、むしろ社会というより、共同体的なものが多いのではないかと考えられます。

(3)それからもう一つ、精神の秩序という問題があります。この無形のものは、それ自体、ヨーロッパでもなかなかむずかしい問題だし、別にそんなにはっきりしているわけではありません。それに宗教的なもの、哲学的なもの結びついているし、いろいろと過去の伝統的なものと結びついているけれども、ヨーロッパのほんとうの深い精神性は、やはり、新しい人間の実存という考えの中から出てくるので、過去の宗教的な精神性でも、あるいは人間的、哲学的な精神性でも、人間の実存が根源的に含まれていれば、それが精神性というもののもとなっているのではないかと思います。

(4)その精神性というのは、さっきお話したように、人間が「経験」を越えて、それをオーガナイズする働きの中に現われているわけですから。

(5)たとえばヨーロッパには、隠れた秩序というものがあります。しかし、日本にはそういうものがないし、またそういうものがありうるということを信じるのが、日本人にはなかなかむずかしい。日本人は非常に実証的な人間だからです。ところが、隠れた秩序などというものは実証できない。信じる以外にはしょうがない。ですから最近の日本には、隠れた秩序などないわけです。

ということは、日本では秩序というものが、法律という形で外から強制されるものとしてしか存在しないことになるわけです。

[コメント]

ICU で「人格の基礎」と題する森有正先生の講義をお聴きしてから、先生の本を折に触れて読むようになり、数十年が経った。

「経験」と「体験」の違いをどう自分のものにするかも大きな課題だが、これからの時代には社会のシステムをどう考えるかもより大きな課題であるということも少しずつ判ってきたような気がする。

- 2009年1月28日林明夫記 -

高橋英夫編「志賀直哉随筆集」岩波文庫 1995年10月16日刊を読む

リズムとマンネリズム - 二宮尊徳の仕事 -

1. 偉れた人間の仕事——する事、いう事、書く事、何でもいいが、それに触れるのは実に愉快なものだ。自分にも同じものが何処かにある、それを眼覚まされる。精神がひきしまる。こうしてはいられないと思う。仕事に対する意志を自身はつきり(あるいは漠然とでもいい)感ずる。この快感は特別なものだ。いい言葉でも、いい絵でも、いい小説でも本当にいいものは必ずそういう作用を人に起す。一体何が響いて来るのだろう。
2. 芸術上で内容とか形式とかいう事がよく論ぜられるが、その響いて来るものはそんな悠長なものではない。そんなものを超絶したものだ。自分はリズムだと思う。響くという聯想でいうわけではないがリズムだと思う。
3. このリズムが弱いものはいくら「うまく」出来ていても、いくら偉らそうな内容を持ったものでも、本当のものでないから下らない。小説など読後の感じではつきり分る。作者の仕事をしている時の精神のリズムの強弱——問題はそれだけだ。
4. マンネリズムが何故悪いか。本来ならば何度も同じ事を繰返していれば段々「うまく」なるから、いいはずだが、悪いのは一方「うまく」なると同時にリズムが弱るからだ。精神のリズムがなくなってしまうからだ。「うまい」が「つまらない」という芸術品は皆それである。いくら「うまく」ても作者のリズムが響いて来ないからである。 P91 ~ 92
5. 武者の「二宮尊徳」も大変面白かった。
 - (1) 自分の祖父が今市時代の尊徳の弟子だった関係で、尊徳の名は子供から親んでいたが、まとまって知ったのは今度が初めてだ。尊徳の捨身なリズムの強い生活には非常にいい刺激を受けた。
 - (2) 尊徳の時代といえは政治思想の今より動揺烈しい時らしいが、その渦に少しも巻込まれた形跡のないのは不思議な位だ。傍眼もふらず自分の目標へ一本槍で進んでいる。
 - (3) 勝海舟の「氷川清話」では、尊徳は一本気の土百姓として簡単に扱われているが、政治以外頭のない海舟としては尤もな所もあるが、今日になって見れば一家を再興し、一ヶ村、三ヶ村を興すために十年もかかって捨身で働いていた尊徳が、当時、時代の一方を一人で背負っていた観のある海舟よりも、遙かに根本的な生命ある仕事をしていたと思うと面白い事だ。尊徳を南洲や海舟の上に置き、世界に誇っていい偉人だという武者の説には大賛成だ。

(4)時代の流れに乗って仕事をする奴はその時、時代の流れがなければ何もしなかったかも知れぬ弱味がある。尊徳は時代の流れには没交渉な奴だった。むしろ時代の流れは尊徳に合わなかった。それでも尊徳は我流の一本槍で、^こ維れ日も足らず、捨身に進んで如何なる時代にも普遍である教えを身を以て残して行った。実に強い。武者の「二宮尊徳」は平易に書いた面白い本としてお勧めする。

P94 ~ 95

[コメント]

仕事とは何かをリズムという観点から志賀直哉が書いた文章。二宮尊徳先生について武者小路実篤の作品を通して紹介している。私も同感。

- 2009年2月24日林明夫記 -

魯迅著「阿Q正伝、藤野先生」講談社文芸文庫 1998年5月10日刊を読む

藤野先生

1. 「わたしの講義を、君はノートすることができますか」と彼はたずねた。

「少しできます」

「持ってきて見せなさい」

わたしが講義のノートを差し出すと、彼は受け取ったが、二、三日すると返してくれた。そして、これからは毎週持ってきて見せるようにといった。持ち帰って開けて見たとき、わたしはあっとおどろき、同時に一種の不安と感激とを覚えた。わたしの講義ノートは始めから終わりまで、すっかり朱筆で添削してあったばかりか、たくさんの抜けている部分を書き足してあり、文法のあやまりまでいちいち訂正してあったのだった。このようなことがずっと、彼の受け持っている学科の骨髄学、血管学、神経学の講義がおわるまでつづいたのである。

P262 ~ 263

2. なぜか知らないが、わたしはいまでもときどき彼のことを思い出す。わたしがわたしの師であると思いきめている人の中で、彼はもっともわたしを感激させ、わたしを励ましてくれた一人なのである。おりにふれてわたしはいつもこう考える。彼のわたしに対する熱心な希望、^う倦むことのない教えは、小にしていえば、中国のためであり、中国に新しい医学がおこることを希望してである。大にしていえば、学術のためであり、新しい医学が中国へ伝わることを希望してである。彼の人格は、わたしの眼の中と心の中において偉大である。彼の姓名は多くの人々の知るところではないかもしれないが。

3. 彼がなおしてくれた講義ノートは、わたしは三冊の厚い本に製本して、大切にしまっておいた。永久の記念にするつもりでいたのである。ところが不幸にも7年前に転居するとき、途中で本箱を一つこわして、その中の半数の本をなくしてしまった。あいにくその講義ノートもなくした中にはいっていたのである。運送屋を責めてさがさせたが、何の返事もよこさなかった。だが彼の写真だけはいまもなおわたしの北京の寓居^{くうきよ}の東側の壁に、机に向かって掛けてある。夜、仕事に倦み疲れて、なまけごろがおこってくると、いつも、顔を上げて、灯火のなかに、彼の黒い、痩せた、いまにも抑揚のひどい口調で話だしそうな顔を眺めると、わたしにはたちまち良心がおこり、勇気が加えられるのである。そこで煙草に火をつけ、ふたたび「正人君子」の連中に深く憎まれる文字を書きつづけるのである。

P267 ~ 268

[コメント]

中国からの留学生、魯迅に対する藤野先生の教育的愛情が伝わる作品。教育関係者、必読の「藤野先生」。

- 2009年2月25日林明夫記 -

進学する大学が決まったら、第2外国語の勉強をどんどん進めよう

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。本日も「開倫塾の時間」をお聴き頂き、ありがとうございます。

少し先のこととなりますが、志望校に合格をしたらどうしたらよいのかということについて、お話をさせていただきます。

受験生の中には、既に進学する大学が決まっている方も多いと思います。全受験生の6割が、昨年のうちに決まっているという話も聞きます。その方々、そして、今あるいはこれから入学試験を受験して合格を得た方々に、4月に行われる入学式までに何をしたらよいかというお話をいたします。皆さん驚くような話かもしれませんよ。

以前は、大学は非常に楽なところで、授業に出席し、試験で何か書きさえすれば、必ず単位が取れ、卒業できると言われていました。あるいは、大学生は楽な立場にあり、授業に出ても出なくてもよい。先生は教室の前の方でボソボソと話していればよい。それでも卒業できてしまったというのが、以前の大学でした。

ところが、今は、それがガラリと変わりました。大学の質が大切だということで、その質の保証のために非常に厳格な評価制度が導入されてきています。例えば、4単位を取るためには、前期に90分授業を15回、後期に90分授業を15回受けなければなりません。それが積み重なって、卒業単位になるようになっていきます。以上出席しなければ試験すら受けられない、大学で勉強した中身が身に付いていなければ卒業できないというようにしている大学もあります。ですから、授業にはちゃんと出ましょう。

大学1・2年生で大切になるのは、第2外国語です。英語の他に、中国語やスペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語などの中から履修します。これは、どこの大学でも行っていることで、試験を受けて合格点を得られないと進級できません。持ち越すと留年になることもあり、また、何年も単位が取れないと落第して卒業できないこともあります。

このように、1・2年次の最大の難関は第2外国語と言えます。また、第2外国語の先生は非常に厳格な評価をします。それは、中学1・2年生の内容を大学の授業でやるのでは価値がありませんから、これまで学んだ経験がほとんどない中国語やスペイン語などの第2外国語であっても、英語でいえば高校3年生レベルの内容のものを大学の2年間でやりこなそうと熱心に教授するからです。これが、第2外国語の単位を落としてしまう人が多い原因になっています。

そこで、私のアドバイスをお話します。進学する大学が決まったら、履修する第2外国語をできるだけ早く決め、入学式までに予習することです。まず、大きい書店に行き、「やさしい 語」などの書籍の中から、CD付きのあまり厚くない、説明の丁寧なものを購入して下さい。そして、その本を一心不乱に読んでスミからスミまで「理解」し、スラスラ読めるようにして下さい。これを入学式

までに済ませましょう。

CD 付きの教材はたくさんありますので、それを使って音読したり、書き取り練習をして教材に出てくる単語をスラスラ書けるようにする。また、易しい問題は自分で解いてみる。このような練習を徹底的にしてから、入学式に臨んで頂きたいと思います。

大学での授業が始まると先生がいろいろなことを教えて下さいますので、別の教材を使って勉強をし続けていけば、留年することもなく、ましてや卒業できないなどということはありません。逆に、このような予習(準備)をしておかないと、大学の授業は1年目で高2レベル、2年目で高3レベルと猛スピードで進みますので、たちまち付いて行けなくなってしまいます。その結果、留年・退学という厳しい状況にもなり得ますので、大学が決まった方はすぐさま第2外国語の勉強を始めて頂きたいと思います。

大学入試がまだ終わっていない方もいらっしゃると思いますが、本日は「進学する大学が決まったら、第2外国語の勉強をどんどん進めよう」という旨のお話をさせて頂きました。

大学合格後入学式までに取り組んでほしいこと

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。本日も「開倫塾の時間」をお聴き頂き、ありがとうございます。

先週の土曜日と日曜日(19、20日)にセンター試験が行われ、翌日のほとんどの新聞には、その問題・解答が掲載されましたが、皆さんご覧になりましたか。

時間をかけてゆっくり解けば、中学3年生や高校1年生でもできる易しい問題が多かったように思います。ただ、問題量が多いので、基礎的なことを身に付け、練習を積んでいなければよい点は取れません。ですから、来春センター試験を受ける方は、これから基礎的な勉強の積み重ねをお願いしたいと思います。

ところで、昨今はセンター試験を入学入試のかわりにするという大学が非常に多くなりましたので、大学入試はこれでお終いという方も大勢いらっしゃるでしょう。

現在の日本では、高校卒業生の50%が4年制の大学に進学します。短大や専修学校進学を含めると76%、浪人生を入れると80%の人が、上の学校に進学しようとしています。これは、大学の大量化ですばらしいことです。大学の定員が増加したこと、少子化により進学希望者が減少してきたこと、一人当たりのGDP(国内総生産)が少し上がってきたことも、その理由としてあると思います。日本は、デフレとはいえ、GDPは少しずつ上がっていますので、多くの人が大学等に進学できる状況になりました。これは、国民一人ひとりが人生においてさまざまな選択肢を得られるという観点からもすばらしいと思います。

ただし、問題が1つあります。大学や短大・専門学校等には、厳しい教育や研究に耐えられる学力を身に付けている学生ばかりが入学してくるわけではありません。易しい試験で合格した学生、あるいはAO入試という正式な科目の試験を受けないで入学する学生も何割かいます。そこで大きな問題になるのが、学力不足問題です。

この問題を解決するには、自分で勉強する以外にありません。入学式が行われるのは4月上旬です。入学が決まった方は、それまでに2か月程ありますので、その間に高校で十分勉強してこなかった科目の教科書をもう一度丁寧にやり直すことをお勧めします。特に、5科目の中で大学の授業に耐えられないというものは、必ず勉強し直しておいて下さい。

例えば、医学部に入学が決まったのに、高校の時に生物をあまり勉強していなかったというのでは困ってしまいます。中学の生物の知識で医学部の授業に臨んだのでは、間違いなく授業についていけませんので、ぜひ勉強しておいて下さい。また、法学部や経済学部などに進むのに、倫理社会や政治経済をあまり勉強していない方もいます。これでは話になりませんので、この期間に勉強して下さい。現代社会が不十分であれば、これも勉強しましょう。理工学部で学ぶ方が、数学の微分・積分の習得が不十分であれば、授業や研究についていくことができませんので、確かなものにしておいて下さい。

地球環境を学ぶのに、地学を勉強していないのでは大変なことになります。地学は高校ではあまり履修しない科目ですが、中学校で既習した知識だけで大学の授業を受けるのは困難です。ですから、入学式までに、高校の内容の地学を勉強したほうがよいと思います。

現代の高校教育の最大の問題は、卒業生のほとんどが大学等に進学することがわかっているにもかかわらず、大学の授業や研究に必要となる科目を履修させないということだと思えます。とにかく、どこかの大学に合格させなければということばかり考えて、受験に必要な科目に重きを置き、高校で本来勉強しなければならないものをさせないという傾向にあるようです。これでは、大学の授業や研究に耐えられるだけの学力を身に付けることはできません。ですから、合格が決まってから入学式までの間に、自分で勉強するしかないのです。

自分でやってわからないところは、高校や予備校、塾の先生に恥ずかしながら聞いて下さい。入学式までに終わらなかった科目は、夏休みまで、もしくは1年生が終わるまで、あるいは2年生になるまでに終わらせようと目安を決めて、それをやり遂げましょう。

大学によっては、大衆化した大学の現状を踏まえて、アメリカのようにリメディアル教育というか、高校で学習が足りなかった科目を一所懸命教えるところもあります。しかし、そのような大学はまだまだ少ないですから、不足している内容を自分の力で補う努力をしていただきたいと思います。これからが専門の勉強ですので、皆さんの頑張りを期待しています。

勉強の仕方を考える

- 音読と書き取りを繰り返して暗記し、学習効果を上げよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。お陰さまで、この放送は今年で22年目に入りました。皆様が熱心に聴いて下さっているお陰であると思います。心から感謝申し上げます。高校入試が終わりましたが、皆さんよく勉強されたことと思います。当塾のある先生は、受験生の本番直前の姿はまるで観音様のようにこうごうしく見えるとおっしゃっていました。皆さんそのくらい熱心に勉強したということですね。

さて、この番組では、21年前よりずっと、「どのようにしたら勉強ができるようになるか」というお話をさせていただいております。

2. 英語の勉強方法を考える - 猪口邦子さんから学ぶ -

(1) 私は、国会議員としては厚生労働委員会の委員長をやられて御活躍なさっている茂木敏充衆議院議員を存じ上げていますが、もう一人、素晴らしい国会議員の方を知っております。その方は、以前国連の大使をなさっていた猪口邦子さんです。猪口さんとは、昨年シンガポールで開催された東アジアに関する世界経済会議で親しくお話させていただいて以来、いろいろ勉強させていただいております。猪口さんは、昨年10月12日発行の「日本経済新聞」にコラムを書かれ、それを私に送って下さいました。猪口さんについて少し紹介させていただくと、国会議員の前は上智大学の教授をなさり、また、軍縮(軍備縮小)の国連大使を務められた方です。

(2) そのコラムでは、10代前半にブラジルのサンパウロにあるアメリカン・スクールに通われた時のお話を紹介しています。英語がわからなければ授業がわからないので、必死に、それこそ死に物狂いで英語を勉強なさったそうです。この世を諦めたつもりで、自らに修練を課したそうです。

(3) その勉強方法は、音読(声を出して読むこと)を繰り返すことと、声を出して読んだことを暗記(全部覚えること)の2つに尽きるということです。例えば、単語を覚えるときは、カードやノートをいくつも作り、毎日せっせと声を出して読んで書く。一度覚えた単語も、毎日最初から繰り返す。意味を知り、綴(つづ)りはアルファベットをそのまま覚える。「りんご」は「a.p.p.l.e」のようにです。この英語の勉強の仕方は、とてもおもしろく、ためになるそうです。

- (4) 単語カードを作り、新しい単語も一度覚えた単語も繰り返し繰り返し音読し書く練習をして、使える単語を1つでも多くすれば、まずは本が読めるようになります。単語の次は、定型の文を丸暗記します。すると、英作文が書けるようになります。応用をきかせるには、頭に収まっている単語を入れ替えて当てはめればよいのです。
- (5) この方法は、いろいろな場面で活用できます。例えば、軍縮大使になった時は、このやり方で国際法のいろいろな条文をほぼ丸暗記したそうです。相手国との交渉時に、交渉相手が「15条22項は…」と言いながらファイルを開いてその条文を探しているときに、それを諳(そらん)じている猪口さんはすかさずその条文を口にする。すると、心理的に優位に立つことができたとのことでした。
- (6) 国会議員となった今は、外国からお客様をお呼びすることが多くなったそうです。毎日のように英語を使って仕事をした軍縮大使の時と比べ、英語力が少し鈍ったとお感じになられた猪口さんは、朝の十数分を使って、英字新聞のヘラルド・トリビューン紙の一面の記事を音読しているそうです。日本語と英語とでは、話すときに使う筋肉が違い、表情や身振り・手振りも違うので、音読は筋力トレーニングにもなるそうです。
- (7) 論語にも、「学而時習之、不亦説乎(まなびて ときに これを ならう、また よろこばしからずや。)」ということばがあります。「時習之(ときに これを ならう)」とは、復習することです。つまり、勉強したら繰り返し復習することが大事だということです。

3. おわりに

- (1) この衆議院議員の猪口邦子さんの勉強方法は、すべての科目に通じます。まずは音読して、次に、書いて書いて暗記するのが効果的です。世の中には成績のよい方と成績の奮(ふる)わない方がいますが、両者の差はこれだけです。どちらも同じ話を聴いているのですが、成績のよい方は繰り返し暗記をします。一方、成績のかんばしくない方は、学校の授業だけでおしまいにしています。これで、偏差値は20も30も違ってくるのです。偏差値が70ある人は、ほとんどの高校、大学に受かります。ところが、40くらいの方は、受かる学校が減り、それによって選択肢の少ない人生を歩むこともあります。
- (2) 勉強をして成績を上げれば上げるほど、偏差値を上げれば上げるほど、選択肢の多い豊かな人生を歩むことが可能になります。ですから、すべての勉強において、十分「理解」したことについては、音読、書き取りを繰り返し、暗記することに徹して下さいね。

以上

- 2008年7月10日加筆 -

一生涯勉強を続けることの大切さを考える

- 福祉の担い手になるために必要なこととは -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

先週の11日に、東京都の離島の1つである新島に出掛けました。新島にある新島中学校から出張授業の依頼を受け、総合的な学習の時間に、中学3年生21名を前に話をしました。依頼された内容は「福祉について話してほしい」ということでしたので、高校に進学したり社会に出るに当たって心得ておいたほうがよいことと絡めて話をさせていただきました。

2. 福祉の担い手となる方々に望むこと

(1) 私は、足利市にある特別養護老人ホーム「清明苑」の理事をさせていただいています。そこで、清明苑ではどのような介護活動や福祉活動をしているのかを紹介しました。福祉には、子供の福祉、母子福祉、児童福祉、ニート・フリーターへの福祉、仕事を持ちながら働く人たちへの福祉、高齢者(65歳以上)の福祉などがあります。それらの福祉の担い手には、どのようにしてもらったらよいのかお話をしました。

(2) 福祉の担い手になるには、中学校、高校で勉強してから専門学校あるいは短期大学・大学に進んで、さらに専門の勉強をする必要があります。もっと勉強する人は、大学院で勉強してから福祉の仕事に携わります。その職業について理解するためには、勤め始めてから10～15年くらいはかかります。ですから、35歳から40歳くらいまではとにかく勉強し続けてほしいと、私は希望しています。そして、福祉の担い手として第一線で活躍していただきたいと思っています。70歳くらいまでは現役で働き、70～105歳くらいまでは身体の許す限りゆっくり福祉の活動に参加していただく。学校を出てから10年くらい、つまり35歳くらいまできちんと勉強をすると、70歳までよい仕事ができます。70歳を過ぎても、105歳までの35年間はまた違う形で仕事に就くことができます。このようにして、一生続けて福祉の担い手になって下さい。

(3) 足利市に居住されていた書家の相田みつをさんのことばに、「一生勉強、一生青春」があります。私はこのことばが大好きで、新島中学校でも紹介させていただきました。一生涯勉強を続けながら、人生を送っていただきたいと思います。

3. おわりに

(1) 新島で驚いたことがあります。それは、島内のどこに行ってもゴミが1つも落ちていないということです。村民の方が、ゴミが落ちていると拾っているからです。新島は、すばらしくきれいな島です。

(2)話は変わりますが、足利銀行の受皿が決定しました。野村グループになり再出発をしますが、以下に挙げることをお願いしたいと思います。

友愛義団というすばらしい歴史があるので、足利銀行という名前だけは残していただきたい。これまでの取引先に融資を続けていただきたい。

2100名の行員が、池田頭取と共に頑張ってきた。歯を食いしばって再建に励んできた。これら行員を、一人も解雇しないでいただきたい。

もう一度上場していただきたい。

自主的な経営を目指していただきたい。

(3)私は、マニー株式会社の社外取締役も仰せ付かっています。マニー株式会社には、社内だけでなく、社外からの取締役も4名います。弁護士の方、会計士の方、花王で洗濯用洗剤アタックを開発した村田さん、経営者の立場にある私、林の4名です。

(4)足利銀行も、可能であれば、委員会設置会社にしてガバナンスの強化を図っていただき、透明性を高めていただきたいと思います。国際競争力のある独自性を持った金融機関になってほしい、経済の成長・県民生活の向上を引っばる金融機関になってほしい、そのために外部の人材をどんどん導入していただきたい、2100名の行員の方々の能力を強化していただきたいと希望いたします。

春休みの過ごし方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

2. 春休みの過ごし方を考える

(1)春休み中ですので、今回は「春休みの過ごし方」についてお話させていただきます。春休みは何のためにあるのかというと、新学年の準備をするためであります。ですから、春休みは新学年の準備に徹したほうがよいと思います。

(2)一番大事な準備は何かといえますと、心の準備だと思えます。私は何のためにこの学校に4月から入学するのか。入学なさっている方は、今年1年間何のために勉強するのか。学校に新しく入学する場合には入学する目的、進級する場合には新しい学年で何を勉強するのか、どういう過ごし方をするのかという過ごす目的をはっきりさせて、新しい学年に向かう。新しい学校に向かう。これが春休みの過ごし方として一番よい過ごし方だと思えます。自覚をもって勉強するかどうかで、教育の成果は決まります。ですから、ぜひ自覚をもって、自分は何のためにこの学校で勉強するのか、新しい学年になって何を勉強したいのか、何を学びたいのかということをはっきりしたほうがよいと思います。それが一つです。

(3)それから、大学やちょっと難しい短期大学、専門学校等で勉強する方へのアドバイスです。特に、大学に行かれる方は、ドイツ語、スペイン語、中国語など、英語以外の第2外国語の勉強が新しい学校で始まります。必ず1科目くらいはやらなければなりません。多くの方が、この第2外国語を軽んじて何の準備もしません。しかし、大学ではものすごいスピードで授業が進みますので、あっという間に落ちこぼれてしまい留年ということになってしまいます。多い学校では、第2外国語を落としたために、留年なさったり卒業できない方が約3割いらっしゃいます。ですから、くれぐれも第2外国語だけは、注意をして勉強して下さい。今からやるのでしたら、一番いい方法は、NHKのラジオ講座やテレビ講座、テキストの4月号を買って、それを自分で勉強なさることです。4月は非常にやさしいところから始まりますので、よいと思います。少し余裕のある方は、本屋さんで一番やさしい入門書を買って、授業が始まる前までに約半分くらいは独学で勉強するくらいのつもりでいくと、落ちこぼれることが少ないと思います。

(4)新しく栃木県に来て勉強なさる方、東京などいろいろな所で新しく一人暮らしをする方へ、アドバイスをさせていただきます。

一人暮らしをする上で一番大事なことは、入学式の前に少なくとも一回くらいは学校まで行ってみるということです。どのようにしたら、遅刻しないで時間前に新しい学校にたどり着けるかを自分で知ることが大事です。電車に乗るなど、いろいろな交通手段を使って新しい学校にたどり着くわけですが、どんなルートで学校まで行くのか。地下鉄に乗るのか、それともバスに乗るのか。バスに乗ったことのない人がバスに乗ることは大変です。ですから、どのようにして時間内に新しい学校までたどり着くのかということを、一日がかりでお調べになることも大事なことです。ぜひお勧めします。

朝起きてから夜寝るまで、どのように過ごすのか。一つ一つよく考えて、できるだけ簡単な形で生活したほうがよいと思います。スーパーマーケットはどこにあるのか。コンビニはどこにあるのか。やはりコンビニのほうが少し価格が高いかもしれませんが、スーパーマーケットで安く買える所はどこにあるのか。また、床屋・美容院はどこにあるのか。ホームセンターや電気屋はどこにあるのか。クリーニング屋はどこにあるのか。それから、病院ですね。歯科、内科、外科、眼科など近くの病院はどこにあるのか。病気になった時にどこにお世話になったらよいのかということも早めに調べておき、それを頭の中に入れて、電話番号と一緒に地図に描いておくことも大事です。

それから、もっと大事なことは、これから先毎日毎日外食ばかりするわけにはいきませんので、料理の作り方を覚えることです。朝ご飯は何を食べるのか。お昼ご飯は学校で済ませる方が多いと思いますが、土曜日、日曜日はどうするか。夜だけは自分で作ったほうがよいと思います。夜をすべて外食で済ませてしまうと、カロリーが偏ったり、体調を悪くしたりします。ですから、料理の作り方を今のうちに、家にいる間に、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、近所の方からぜひ教わって下さい。また、簡単な料理の仕方、野菜ジュースの作り方を教わっておくとよいですね。

3. おわりに

(1)このように春休みは準備をすることがたくさんありますので、よく計画を立てて準備をなさり、新しい学校に行っていたいただければと思います。

今、外に出ますと桜が咲いていて本当にきれいです。心を穏やかに過ごすのによい季節ですので、外に出て桜を見たり新しい花が咲いているのを見たりして過ごしていただければと思います。

(2)最後に、学力は何で決まるかと言いますと、勉強ができるかできないかは、読書をどのくらいするかで決まります。ですから、春休みには少し厚めの本を1冊でも2冊でもよいですから、ゆっくりと読んでいただければと思います。読書の中には新聞も含まれます。今年こそは新聞を毎日、高校生以上は1時間以上、中学生は40分以上、小学生は20分以上読んで、世の中のことをよく考えることもしていただければと思います。最終的には、勉強の仕方を勉強するといいますが、勉強の仕方を身に付けている方のほうが、やはり成績は非常によいです。

(3)今年 1 年、どのような勉強の仕方をするのかを考えることも、春休みの過ごし方として大切なことだと思います。

今日は、新学年が近いので春休みの過ごし方についてお話をさせていただきました。

- 2008 年 8 月 25 日加筆 -

茂木敏充衆議院議員との対談 第1回

全3回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

今朝も「開倫塾の時間」をお聞きいただきまして有難うございます。

毎年1～2回、スペシャルゲストをお呼びしてこの番組を進めさせていただいております。今回のゲストは、衆議院議員の茂木敏充先生です。先生よろしくお願い致します。

茂木敏充先生：おはようございます。よろしくお願い致します。

林：今回は、茂木先生から、これからの日本の景気、経済情勢がどうなるかというお話を3回シリーズでお聞きしたいと思います。よろしくお願い致します。

最初に、金融危機の中で世界はどのようになっていくのか、特にアメリカのオバマ政権についてお話を伺いたと思います。よろしくお願い致します。

茂木敏充先生は、オバマ大統領と同じハーバード大学のご出身ということですが、それでよろしいでしょうか。

茂木：ハーバード大学の同窓ということで、私も誇りに思っているのですが、在籍時期は重なってはいません。私は、ハーバード大学のケネディスクールという公共政策の大学院で、在籍していたのは80年代の前半です。オバマ新大統領はロースクール・法科大学院で法律の勉強をしまして、91年の卒業です。ですから、8年くらいの差があります。ただ、オバマ大統領には、数年前に上院議員に当選した直後あたりから何しろ演説に迫力があり、注目していました。こういう人間が将来のアメリカを支えるのではないかとひそかに期待もして、以前にもワシントンの記者仲間に「バラク・オバマという人は注目だよ」という話をしていました。そして、オバマ氏は、予想以上に早く大統領選に出馬、予備選でヒラリーさんを破り、そして本選では共和党のマケインさんも破りました。40代の若さで44代大統領に就任というのは、本当に素晴らしいと思っています。

林：茂木先生はケネディスクールという公共政策の大学院で、オバマ大統領はロースクール、つまり法科大学院で勉強しておられました。お互いにハーバード大学のご出身ということで素晴らしいことだと思います。

1月20日の大統領就任式には250万人もの観衆が全米から集まったと聞いていますが、オバマ大統領の就任演説をお聞きになって、茂木先生はどのようにお感じになりましたか。

茂木：歴史的にすごい就任式だったと思いました。非常に華やかでしたよね。今、林さんがおっしゃったように、全米から 200 万人以上の人が集まったということで、アメリカ国民の 150 人に 1 人がワシントンに結集しました。1960 年代にマーティン・ルーサー・キング牧師がワシントンに向けて行進をした、当時の公民権運動を彷彿(ほうふつ)とさせるような本当に素晴らしい就任式だったと思います。

ただ、演説そのものは、オバマ候補が大統領になる前と比べると相当モードチェンジがあったと思っています。それは、二つあります。一つは、非常に落ち着いた、ある意味地味な演説だったことです。大統領になるまでの選挙キャンペーンの期間は「Change」とか、「Yes, we can.」という言葉を使って非常に派手な演説でしたが、就任式は落ち着きがあって、その分大統領としての重い責任感が感じられた演説だったと思います。

もう一つは、国民一人ひとりに呼びかける演説だったということです。この就任演説のキーワードは「新しい責任の時代」、英語で言いますと「A new era of responsibility」になってくると思います。非常にアメリカの歴史や、原点を意識し、国民の皆さんにも責任を持ってもらうのだという演説でした。これは、ケネディ大統領の演説を彷彿とさせます。また、対立を乗り越えていくという点では、オバマ大統領が非常に意識していたリンカーン、さらには建国の父ジョージ・ワシントンへの原点回帰です。経済の状態が相当厳しい時代だからこそ、対立を乗り越えてアメリカ国民が一体となって難局を乗り切っていく必要があるのだ、という演説になったのではないかと思います。

林：オバマ政権では、大統領の指名選挙を争ったヒラリーさんを国務長官、日本で言うと外務大臣に指名しました。オバマ政権の特徴をどのようにお考えですか？

茂木：対立を乗り越えて一体になるということがシンボリックに表れていると思います。「チーム・オブ・ライバル」と言われているのですね。指名選挙を争ったヒラリーさんを国務長官に指名する。更には、政党の違う共和党のゲイツ国防長官(日本で言うと防衛大臣)を留任させる。こういったところにも、以前のライバルと対立を乗り越えて一体感を醸し出したい、というオバマ大統領の意気込みというか、気持ちが表れていると思います。

もう一つの特徴は、今回のオバマ政権が“Clinton Administration Without Bill”と言われていることです。つまり、クリントン政権の中で、ビル、つまりクリントン元大統領だけがいない政権ということです。人事では選挙で頑張ってくれた人を重用する、こういうことがアメリカの大統領には多いのですが、今回はむしろ実務家や経験のある人を起用した。これが特徴だと思います。

さらに多様性ですね。ご本人もアフリカ系黒人ということもありますが、20 くらいある閣僚級ポストの中で女性を 5 名、黒人を 4 名、アジア系を 2 名、アラブ系を 1 名、ヒスパニックも登用するというので、非常に多様性あふれる人選になったのではないかと思います。

林：最後にお聞きしたいのですが、オバマ大統領の支持率は非常に高いと聞いていますが、オバマ政権の今後の見通しについて茂木先生はどのようにお考えでしょうか。

茂木：発足直後の支持率が 68 %ということで、これはケネディ大統領の 72 %に次ぐ史上 2 番目の高さになります。その一方で、アメリカは経済的に相当厳しい状況にありますから、これを乗り越えられるかどうか。これが、今後オバマ政権の基盤が固まっていくかどうかの試金石になっていくと思います。

林：有難うございました。今日は茂木敏充衆議院議員をお招きし、茂木先生から金融危機の中で日本とアメリカがどうなっていくのか、その第 1 回目のお話をお聞きしました。茂木先生、来週もまたよろしくお願い致します。

茂木：こちらこそよろしくお願い致します。

茂木敏充衆議院議員との対談 第2回

全3回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

今朝も「開倫塾の時間」をお聞きいただきまして有難うございます。

今朝の「開倫塾の時間」は、先週に引き続きまして衆議院議員の茂木敏充先生をお招きして、お話を伺いたいと思います。先生、よろしくお願い致します。

茂木敏充先生：おはようございます。よろしくお願い致します。

林：今週は、金融危機の中で日本とアメリカをどのように考えたらよいのか。特に、日米の経済対策についてお話を伺いたいと思います。オバマ政権は金融危機の解消を最優先に対策を進めているとお聞きしました。そのオバマ政権の特色や今後の課題はどのようになってくるのでしょうか。

茂木：先週もお話しましたが、オバマ政権の支持率は大変高く、発足当初は68%で、ケネディ政権の72%に次いで歴代2位ということです。同時に、アメリカ国民に「どういう問題に関心を持っていますか」というアンケートを取ると、80%の国民から経済の問題、景気の問題、そして失業対策という答えが返ってきます。オバマ政権にとって一番大切なのは、まず経済の立て直しということになってくると思います。

ところで、アメリカは新しい大統領が誕生しますと100日間はマスコミも新大統領に対して批判をしません。これは「ハネムーン」または“first hundred days”「最初の100日」とも呼ばれます。そこで、この100日の間に政策なども比較的スムーズにいろいろなことができます。大恐慌の時も、ルーズベルト大統領がいわゆるニューディールをやったわけですが、そのニューディール関連の法案も、最初の100日、つまりfirst hundred daysでほとんど成立しました。

オバマ政権を見ていまして、72兆円の経済対策、これは「米国経済回復・再投資法案」と言われているのですが、これもハイスピードで進められています。72兆円というと相当な規模で、この中には300万人から400万人の雇用創出のプログラムも含まれています。また、単に緊急の危機対策だけではなく、「グリーン・ニューディール」という言葉をよく使っていますが、日本と比べるとアメリカのエネルギー効率はまだまだよくないので、エネルギー効率を向上させたり、イノベーションを推進するという新しい成長モデル作りが大きな目標となっています。

林：今、茂木先生からいろいろお話をお聞かせいただき、これでアメリカの経済は早期回復の見通しが立つのか、ということがまた疑問になってきましたが、どうでしょうか。

茂木：率直に言って、先行きは相当厳しいです。日本も今厳しい、厳しいと言われるのですが、それ

以上にアメリカは厳しいと思っています。例えばアメリカの家計部門を見てみますと、今までに借りた住宅ローン、カードローン、更には自動車ローンで大幅な赤字なんですね。全体で言いますと400兆円くらいの赤字、専門用語ではover leverage（オーバー・レバレッジ）という言葉を使うのですが、要するに借りすぎなのです。自分の身の程以上の生活をしてきた、このツケが今回ってきているという形です。

一方、日本を見てみますと、確かに国は赤字、地方財政も赤字なのですが、一般の家庭は堅実です。アメリカの400兆円の赤字に対して、日本の家計は1000兆円を越える黒字ということですから、消費とかいろいろなことを考えても、立ち直るとしたら日本のほうが早いのではないかと思います。また、金融機関を見ましても、昨年は私も金融の担当大臣をさせていただいているいろいろな形で日本の金融機関の分析をしましたが、今、日本には700行くらいの銀行、信用金庫、信用組合がありますが、公的資金を投入しないと立ち行かないという状況ではありません。これに対して、アメリカには小さいところも含めて金融機関が8500行もあるのですが、その中の214行にはすでに公的資金を投入しているのです。更に、公的資金がないと立ち行かないということで、今900行が公的資金の申請をしています。このように、家計部門を見ても、金融セクターを見ても、アメリカのほうが相当厳しいということが言えるのではないかと思います。

林：まだまだ大変なわけですね。

日本とアメリカの自動車メーカーを比較してみるとどうでしょうか。

茂木：トヨタをはじめ日本の自動車メーカーは、一昨年までは非常に好調だったわけです。ところが、昨年秋くらいから減産、そして減益という状況になって深刻なのは確かですが、それでもつなぎ融資がないとやっていけないという状況ではありません。短期の落ち込みが激しいので、景気が悪くなったという実感も強いのですが、主要メーカーは4月、5月くらいには在庫調整も終わります。

それに対して、アメリカのビッグ3、つまりGM、フォード、クライスラーですが、この中のGMとクライスラーはすでにつなぎ融資がないとやっていけないような状況なのです。年内にはこのビッグ3の体制が崩れるのではないかと、という話も出ていまして、自動車メーカーひとつをとっても、やはり日本のほうが状況はよいのだと思います。

林：茂木先生のお話をお聞きすると、悪いと言われる日本経済は、アメリカと比べるとまだマシなほうだということですが、今の政府の対策で十分だということでしょうか。

茂木：決してそうは思っていません。ただ病気の症状で喩(たと)えると、今のアメリカ、そしてヨーロッパ経済はもう肺炎の症状ですね。かなりの高熱という状態です。それに比べて日本は、単純な風邪とは言いませんが、インフルエンザか肺炎の一手前という状態です。風邪も景気も悪くならないのが一番です。ただ、風邪をひくこともありますし、景気も循環をします。

ですから、悪くなったら早めの対策をするということが必要です。特に昨年初めから悪かった欧米に比べ、10月くらいから急速に悪くなった日本では、スピード感ある対応が求められているわけです。そこで国会も、今年は1月5日からスタートして、平成20年度の第二次補正予

算を成立させました。そして今まさに、平成 21 年度の本予算、88 兆 5 千億円の早期成立に努めているわけです。率直に言って、状況を見ながら更なる対策が必要だと私は思っております。

様々な事業の思い切った前倒しが必要です。例えば、学校の校舎でいうと、昭和 57 年より前にできた校舎は全国で 6 万 8 千棟くらいあるのですが、耐震化がされていません。10 年後、15 年後には全部やらなくてはならないのですから、これを前倒してこれから 3 年くらいで、小学校・中学校・高校さらに幼稚園も含めて学校の校舎全部を耐震化する、できれば屋根に太陽光パネルを張ってグリーンスクール化していく、というようなアイデアですね。

林：ワイズスンディリングという言葉があるようですが、もしかしたら素晴らしいお金の使い方もしれませんね。今日はお忙しい中、ゲストとして茂木敏充衆議院議員をお招きしてお話をお伺いしました。来週もまたお願い致します。

茂木：こちらこそよろしくお願い致します。

茂木敏充衆議院議員との対談 第3回

全3回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」を聞いていただき有難うございます。

今月は、茂木敏充衆議院議員をゲストにお招きして、3回シリーズでお話をお聞かせいただいております。今日はその最終回です。茂木先生、今日もよろしくお願い致します。

茂木敏充先生：よろしくお願い致します。ところで、明日から3月ですが、この「開倫塾の時間」も3月で22年目を迎えるそうですね。本当におめでとうございます。

林：有難うございます。茂木先生には、20年くらい前から毎年おいでいただき、本当に感謝申し上げます。

茂木：実にいろいろなテーマで、教育論や社会保障制度、さらに外交問題など林さんといろいろな議論をさせていただき、本当に懐かしく思っております。

林：茂木先生から20年近くにわたって毎年何回かこのような形でお話を聞かせていただくのは、私にとっても非常に名誉で、有難いことです。茂木先生のお話はとても勉強になりますので、皆さんも一緒にお話をお聞き下さい。

今回の一連の金融危機の中で、日本とアメリカの関係をどのように考えたらよいのか、特にオバマ政権の外交と日米関係について、今日はお話をお伺いしたいと思います。

前は日米の景気対策、そして国内政治についてお話をお伺いしましたが、今回はオバマ政権の外交政策についてお伺いしたいと思います。その特色はどのようなものとお考えでしょうか。

茂木：それまでのブッシュ政権は hard power(ハード・パワー)、どちらかと言いますと軍事面を重視したのに対して、オバマ政権の外交政策は一言で言うと smart power(スマート・パワー)という言葉を使います。総合力で勝負をする、つまり軍事ももちろんありますが、経済や文化など、ソフト面を重要視するのです。

もう1つは、ブッシュ政権の頃は unilateral(ユニラテラル)、つまり、日本語に直すと一極主義、米国が中心になっているいろいろなことを動かしている、こういう言葉が使われました。しかし、オバマ政権では multilateral(マルチラテラル)、つまり、日米間はもちろん、ヨーロッパ、更には中国をはじめとする新興国、それから国連や国際機関等と話し合いをし、協調しながらやっていこうという方向にシフトしています。ユニラテラル(一極主義)からマルチラテラル(多国間協力)にシフトしている、このことが大きな特徴だと思っています。

林：今、smart power(スマート・パワー)という言葉をお聞きしました。これは茂木先生のご出身のハーバード大学のケネディスクールのジョセフ・ナイ学院長がご提唱されました。今度は日本大使にご就任されるかもしれないということですが、よかったですよね。

茂木：今、そういう予定で進んでいます。私を含めハーバード大学のケネディスクール出身の国会議員が自民党の中にも7人くらいおり、私とその「ケネディスクールの会」の会長をやっております。みんな、ナイ学院長が日本大使に就任することを喜んでいます。

林：ところで、テロとの戦いでは、インド洋での給油など日本への協力が非常に求められましたが、オバマ政権でも同様の要求があるのでしょうか。

茂木：テロとの戦いについては、オバマ政権でもきちんと継続をしていくということです。ブッシュ政権は、名指して北朝鮮とイラク、イランを「悪の枢軸」と言いました。オバマ政権は、それよりも国境を越えて広がるテロの温床に対処していくということですので、どちらかと言うと重点がアフガニスタンとかパキスタンのほうに移っていくのではないかと思います。同時に、先ほど申し上げましたように hard power(ハード・パワー、軍事)から smart power(スマート・パワー、総合力)へとということになってくると、それぞれの国が自分の得意分野で貢献をしていく、また、アメリカとの間でも、ヨーロッパ諸国との間でも役割分担をしていくということが大切だと思っております。

例えばアフガニスタンについてお話すると、日本の国内ではあまり知られていないのですが、日本は相当な復興支援を行っておりまして、その成果が上がっているのです。いくつか挙げてみます。

まず、治安の改善という問題で言いますと、アフガニスタンには警察官が7万人いるのですが、日本は平成20年度の二次補正予算で約140億円を支出して、これらの警察官の給与の半年分を持ってあげています。治安を守るうえで警察官の果たす役割は相当大きいですから、非常に感謝されております。

それから保険や医療の分野で言いますと、アフガニスタンの人口は約3千万人くらいですが、人口以上の延べ4千万人分のポリオをはじめとするワクチンを日本が提供しています。

さらには、林さんの専門であります教育の分野でも、アフガニスタン国内の学校の建設・修復をすでに500校以上行っています。また、1万人以上の教員の育成や、林さんも開倫ユネスコ協会の会長として世界寺子屋運動等で識字教育をなさっていますが、30万人以上のアフガンの識字教育も日本が支援しました。

林：茂木先生が以前、外務副大臣をやられていたとき、中東で腕まくりをなさって大活躍されていたのをよく覚えています。素晴らしかったですよね。

茂木：有難うございます。確かイラクのバグダッドでしたね。

林：それから、アメリカが民主党政権になりますと、かつての貿易摩擦のように日米関係がより厳しくなるのではないかという見方もありますが、どのようにお考えでしょうか。

茂木：確かに 80 年代の日米関係では、相当な貿易摩擦やジャパンバッシングがありました。では今後、オバマ政権になってどうなるかということですが、ブッシュ政権時代と比べて3つくらい大きな変化があると思います。

その一つは環境問題。気候変動や省エネルギーの分野を重視するということですね。それから二つめは、核軍縮・不拡散。これに対してブッシュ政権はそんなに熱心ではなかったのですが、オバマ大統領は核兵器のない世界を追求する、と言っていますし、相当いろいろな問題に踏み込んでいます。三つめは、アフリカの開発。やはり自分の origin(オリジン=起源)ということもあるのでしょう。これにも重点を置きたいということです。ご案内の通り、環境問題や省エネルギーにおける日本の技術は世界一です。そして、核不拡散の分野では、日本は唯一の被爆国としてずっと国際社会に働きかけをしてきました。アフリカの開発についても、去年は第 4 回アフリカ開発会議(TICAD)が日本で成功をおさめ、アフリカからも日本に対しての期待が非常に高まっています。

このように、オバマ政権が向かっている方向というのは、まさに日本がこれまでやってきたことに重なってきているので、大きな方向として日米はこれから、歩調が合った非常によい形で協力できる関係になっていくのではないかと私は思います。

林：どうも有難うございました。今日は、前々回、前回に引き続きまして、衆議院議員の茂木敏充先生をお招きしてお話をお伺いしました。最後に、大不況の中ですが、どのように大不況のときを過ごしたらよいのか、先生から一言アドバイスをお願いします。

茂木：厳しい世の中であるのは確かです。しかし、悲観主義からはよい結果は生まれません。皆が協力をする中で、どこにチャンスがあるか考えながら乗り切っていく、こういう前向きな発想が必要なのではないでしょうか。

林：その通りですね。最後に、茂木先生から、前向きな発想でこの時期を乗り切ったほうがよいのではないかというアドバイスをいただきました。有難うございました。先生には更にご活躍をしていただければと思います。

茂木：来月から 22 年目、頑張ってください。

林：有難うございました。

卓越した業績を目指して
- 業務改善の具体的方法とは -

開倫塾
林 明夫
(<http://www.kairin.co.jp/>)

1. はじめに

(1) 自己紹介 - 私の活動 -

株式会社 開倫塾 代表取締役社長
マニー株式会社(ジャスダック, Jストック、手術用縫合針製造)社外取締役
社団法人 経済同友会幹事(東京)
学生のとくに刑事政策を勉強(宮沢浩一先生)

(2) 本日の講義の目的

「経営品質」向上の取り組みを通して「業務改善」の具体的方法を考える
皆様の「成功の実現」と「持続可能な社会の形成」を考える

2. 卓越した業績を目指して

(1) 「経営」とは「営みを経て目的・目標を達成すること」

(2) 経営の基本理念

「顧客本位」

「顧客」とは

(ア) 塾生

(イ) 保護者

(ウ) 地域社会

「独自能力」

* 「トレードオフ」... やらないことを明確にすること

「社員重視」 - empowerment(エンパワーメント)

(ア) 能力強化 } 「能力強化」した上で「権限を委譲」する
(イ) 権限委譲

* empowerment(エンパワーメント)は「人間の安全保障(ヒューマン・セキュリティ)」の2番目の基本的な柱。もう1つは、「保護(protect プロテクト)」。

(ウ) 「エンパワーメント」による「労働生産性の向上」 「雇用の維持・確保」

「社会との調和」

(ア) 法令遵守(コンプライアンス)

(イ) 社会貢献活動の推進

(3) 「企業は原則倒産」。問題点の放置は「業績悪化」、「倒産」に直結する

(4) 業務改善の具体的方法

P(Plan プラン、計画) D(Do ドウ、実行) C(Check チェック、検証) A(Action アクション、修正)をどんどんまわすこと

基本的な考え方

(ア) 「観察」(何が問題か...「問題点の発見」)

(イ) 「分析」(本当の原因は何か...「原因の推定」)

(ウ) 「判断」(問題解決)

{ (a) とりあえずどうするか - 「応急措置」

{ (b) しくみをどう変えるか - 「システム変更(制度改革)」

「暗黙知(あんもくち)の共有化」

(ア) 「競合比較」(競争相手が何をやっているかを学ぶこと)

(イ) 「ベストプラクティスのベンチマーキング」

{ (a) 社内のベストプラクティスのベンチマーキング

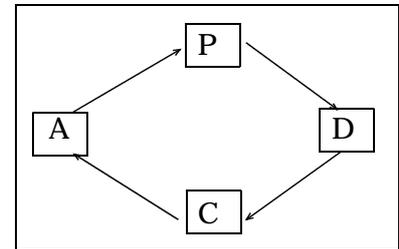
{ (b) 同業他社のベストプラクティスのベンチマーキング

{ (c) 異業種のベストプラクティスのベンチマーキング

* (ア)と(イ)を休日を利用して行い、P D C Aをまわすときに用いる基本的な考え方である「観察」「分析」「判断」の前提となる「知識」を身に付ける。

* 単なる思いつきは、人類初めての実験。闇夜に鉄砲を撃つと同じ。失敗することが多い。「競合比較」と「ベストプラクティスのベンチマーキング」で何十年にもわたり仕事上の「知識」を蓄積、共有することが求められる。

* 「できるだけ簡単な形」にして、既存店で実験。少しずつ全体として取り入れる。



(5) 「企業は原則倒産」。「問題点の先送り」は「業績悪化」(売上不振 - 赤字部門をつくること)に直結する。このままではダメになるという強い問題意識(危機意識)を持つことが大事。

耳に痛いことを言う人は尊い。問題点を指摘する人は尊い。議論は自由。但し、決定は責任者が一人で行う。皆が反対することを決定せざるを得ない場合は、決定に至るプロセスを丁寧にわかりやすく説明する責任を意思決定者はする責務がある。(「説明責任」、accountability アカウンタビリティ)

発言者は、できるだけ丁寧な表現、言葉遣いで理路整然と意見を表明すること。人格批難はしないことが求められる。

(6) 社会が栃木刑務所に求めること

犯罪のない社会づくり

再犯者のない刑務所づくり

日本一、世界一の女子刑務所

* 社会も、栃木刑務所には協力する責務がある。

企業も社会的責任を果たす責務がある。遠慮せずどんどん協力の要請を。

3 . おわりに - 私の好きなことば -

- 「一生勉強、一生青春」 (相田みつを先生)
「ブルドック魂」...食いついたら離すな (岡田忠治先生)
「練習で泣いて、試合で笑え」、「自他共栄」 (椎名弘先生)
「一所懸命」...一つの所で命を懸ける位熱心にものごとに取り組もう
(足利高校、マラソン大会)
「独立自尊」 (福沢諭吉先生)
「離見の見」 (世阿弥)
「いつまでも若々しく生きる」 (中村天風先生)
「健康第一」...心の健康、身体の健康
- お体を大切に -

おすすめ

- ・「武者語り」
- ・「書き抜き読書ノート」

- お疲れの中、御清聴を感謝いたします -

時は今

- 港区公立学校長研修会で考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：東京都港区公立学校長研修会でお話になったそうですね。

A：(林明夫：以下省略)港区教育委員会から依頼され、経済同友会からの派遣講師として、12月9日に、港区立教育センターで2時間、港区立の幼稚園・小学校・中学校の校長先生35名を対象に、「社会が求める学校教育の在り方」についてお話をさせていただきました。

Q：「時は今」とは何ですか。

A：世界や日本が100年に一度の大不況に陥っている今こそ、公立学校が自らの存亡を懸けて公立学校本来の教育を目指すべきだということです。実際、港区では、小学生の55%が私立中学校へ進学し、公立中学校へは45%しか進学しないようです。

経済の極端な悪化に伴い、私立中学校に進学がかなわない児童が増大すると思います。「時は今」、今こそ各々の公立学校のよさ、独自性を磨(みが)き込み、アピール。公立学校教育の復活を図るのには、この大不況は非常によい時期です。

そのようなことを言い出したら私立学校は困ってしまうと言う方もいるかもしれませんが、私立学校は私立学校で、「建学の精神」を更に磨き込んで質の高い教育を目指して頂きたい。

「公立がだめだから、はじめから私立へ」という風潮が強すぎる地域が、首都圏には多いようです。公立には公立の、私立には私立のよさがあります。

この大不況は、公立、私立が本来の教育の精神に立ち返り、ゼロから切磋琢磨し、大幅な質的向上を目指すよい機会と私は考えます。

それには、学校長が全精力を傾けて児童・生徒の幸せのみを願い、自らの担当する学校の独自性を強化し、教職員の潜在能力を最大限に強化した上で大幅に権限委譲、地域におけるその学校の役割、つまり地域の教育力の向上を果たさねばなりません。

Q：公立の学校長は、まず何をしたらよいのですか。

A：幼稚園と小学校、小学校と中学校、中学校と高校、高校と大学と、各々最も近い関係にある学校長ともっともっとコミュニケーションを図り、まずはお互いのよさを知ること。よさを知った上で、お互いの抱える課題を率直に話し合い、お互いの課題解決のために大人の知恵とエネルギーを出し合うことかと思います。

1か月に1回くらい、相互訪問形式の合同研修会をし、その後食事会や飲み会を ~ の各グループの校長がすることが、コミュニケーション促進の第一歩です。

私が教育長なら、児童・生徒数の少ない小学校と中学校は1つにまとめて小中一貫校をつくり、小学校と中学校のカリキュラムに一貫性をもたせます。教員も様々な工夫をして、相互交流を図ります。一人の児童も私立中学校には進学させません。これは、私立小学校の児童のほとんどが系列の私立中学校に進学するのと同じ考えです。

よい意味での公立と私立の競争をスタートし、地域の教育の質の大幅向上を図るべきなのが、大不況のこの時期かと思います。まさに「時は今」なのです。

Q：学校長の先生方が最も興味をもたれたことは何ですか。

A：先月号の「私塾界」で紹介させて頂いた、私が社外取締役を4年余り務め、マイケル・ポーター賞を受賞したマニー株式会社の「トレード・オフ」、つまり「戦略としてやらないこと」を予め考え徹底することで「独自性(ユニークネス)」を際立たせ、企業業績向上に結びつけることでした。

また、P D C Aつまり「計画」「実行」「検証」「修正」を徹底的に回すことで、「企業は原則倒産」、学習塾であれば「校舎・教室は原則閉鎖」を回避すること。競争力を強化するための競合比較や社内・同業他社・異業種のベストプラクティスのベンチマーキングの話に興味をもたれた先生も多かったようです。民間であれば、競争相手が何をしているか、社内の暗黙知の形式知化、同業他社や異業種で優れたところがあれば素直な心で学ばせて頂き、できるだけ簡単な形にして取り入れることが、問題点を先送りにせず企業を倒産に至らせない方法であることに、公立の学校長の先生方はあまりお気づきでない方が多かったようです。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者の先生方にお伝えしたいことはありますか。

A：世界大恐慌の様相させ見え始めたこの度の大不況を、もっと真剣に把らえるべきかと考えます。日本国内には、売上げが対前年度比半減、4月からの受注つまり注文が全くなし、ゼロの製造業も出始めたからです。我々は国内向けの純粋サービス業で、輸出産業ではないから助かったなど言っておられません。これからは財政状況が厳しくなりますので、教育公務員にもどんどん賃金や退職金、年金の削減が迫られます。この大不況で、まさに本当の意味での大競争時代に突入します。このような時期こそ、足元を見つめ直し、児童・生徒の立場に立って学習塾・予備校・私立学校としての社会的使命とは何かを考え、独自性(ユニークネス)を追い求めることが大切と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：昨年の「私塾界」12月号でも紹介させて頂きましたが、これからの教育を考えるのに最も参考になるのはOECD(経済協力開発機構)の研究成果です。ドミニク・S・ライチェン、ローラ・H・サルガニク編「キー・コンピテンシー、国際標準の学力をめざして」明石書店刊は、その中でも必読書と言えます。日本の新学習指導要領は、キー・コンピテンシーの日本での実現のために書かれたと私は考えるほどです。お一人で読み進めるのには困難を極めると考えますが、是非お仲間と輪読会をつくってでも何回もお読み下さい。先生方の教育に、一生涯かけて身に付けるべき鍵となる基本的能力・学力とは何か具体的に示されておりますので、必ずお役に立ちます。

- 2009年1月25日記 -

戦略的人材育成とは - サムソン研究所(ソウル)で考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：ソウルには何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)社団法人経済同友会(東京)、第1回韓国視察団の一員として訪問しました。私は、2月11日に視察団の一員としてサムソン研究所(三星経済研究所)のみ訪問。翌日に栃木県社会教育委員会会議が宇都宮市であったので、一人日帰りしました。

Q：サムソン研究所で考えたことは何ですか。

A：サムソン研究所の幹部と日本の経済界代表との間で、世界経済や韓日経済の動向を議論している中で考えたことは、この経済危機を克服するには、日本一国だけ、韓国一国だけでは乗り越えることは困難で、両国が手を携えて協力し、中国や米国、アセアン諸国などとも連携しなければならないということでした。

Q：他の韓国の財閥は皆大変な状況なのに、なぜサムソンだけが成長し続けているのでしょうか。

A：私は、このサムソン研究所の役割が大きいと思います。経済研究は当然のこととしても、とりわけ人材育成のプログラムづくりとその実行、インターネットを通じた各国語による情報発信には、目を見張るものがあります。

Q：サムソン研究所の人材育成はどのような内容ですか。

A：人材育成の最終目標は、「持続可能なグローバル事業成果の創出」、つまり世界中で展開するサムソンの事業を担い持続的に成果を出し続ける人材を育成することだと私は考えます。

そのためには、人事制度改革の方向として「グローバル人材の適材適所での活用」、つまり「グローバルに開かれた人事」が求められます。

この改革を実行するために、世界的に稼働が可能になる制度をつくり、世界各国にさまざまな形で人材派遣をする方式をつくり上げ、公平な機会を与えながらどんどんそれを拡大するような「人材運営」をすることが第一。

また、グローバルな統合育成システム、サクセッション・プランの拡大、グローバルな統合人材管理で、人材の多様化を図りながら「人材育成」を行うことが第二。

更に、グローバルな職級システムの樹立、グローバルな評価・報奨システムの樹立、グローバルな人事管理の哲学を樹立しながら、「同一の基準」で「HR(ヒューマン・リソース)つまり人材制度」の確立を目指すことが第三とされています。

Q：グローバルに事業を展開するには、世界的視野での人材育成が必要なのですね。

A：その通りですね。 新入社員、 新任課長、 新任次長、 新任部長、 新任役員と職能が新しくなるたびごとに、サムソンの共通の企業価値を再学習しながら次の職能を目指したプログラムが、各々 サムソン MBA コース、 大学との連携コース、 役員養成コース、 上級経営者コースと準備されています。

世界各地の現地法人の経営者を教育して成果を創出するのが、サムソンのグローバル・リーダー養成と私には思えました。

Q：本社自体もグローバル化を進めているのですか。

A：はい。主要ポストに外国人の登用を拡大することで、本社の「人的構成」の観点からグローバル化を推進。また、英語と IT を活用した「業務方法」および多様性(ダイバーシティ)教育の充実とグローバルな組織文化キャンペーンによる「価値意識」の観点からも、グローバル化を推進しています。

たえず世界中から優秀な人材をプールし、サムソンの成長ビジョンを提示しながらリテンション(退職防止)の実現を図るのも、サムソンの特色のようです。

このようなグローバル人材育成のしくみづくりの中心を担うのが、サムソン研究所であるように私は考えます。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様にお考え頂きたいことはありますか。

A：どんなことがあってもこの大不況を乗り切り、企業や学校法人の存続を図ることが経営者の使命と考えます。このような大不況の時に最も重要なのが、人材育成のしくみづくりと考えます。自らの組織の人材育成の教育カリキュラムをどう策定して、どのようにマネジメントするか、教育担当をどのように教育するかが、最大の経営課題となります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：リーダーシップについての最良の書として前原金一・昭和女子大学副理事長から教えて頂いた本が、原田種成著「貞観政要(じょうがんせいよう)」上・下、明治書院刊です。唐の基礎を築いた太宗の教えをまとめたもので、第一級の書として北条政子や明治天皇などが学ばれ、徳川家康は足利学校に命じて開版させ、江戸時代のバックボーンを築いたと伝えられています。

明治維新を担った多くの人達も、熟読して身に付けたと伝えられている古典中の古典です。是非、御一読を。

- 2009年2月18日記 -

大不況下の社会教育を考える

- 栃木県内の社会教育施設をフル活用して就労支援のための社会教育の実施を -

栃木県社会教育委員
林 明夫(開倫塾)

1. はじめに

- (1) 昨年秋以来の世界同時株安と超円高は、日本はもとより、輸出型製造業を産業基盤とした栃木県経済を直撃。輸出先の消費の極端な冷え込み、生産の大幅な縮小、雇用調整、県内消費の冷え込み、県内企業の縮小とマイナスのスパイラルに陥り、県民生活に大きな影響を及ぼしつつある。この大不況はまだ「3合目」で、更に深まり、数年間は回復が困難という予測が大半を占める。
- (2) 政府や自治体は、この100年に一度とも言われる難局を乗り切ろうと、国家や自治体の存亡を懸けて財政面で大幅な支援策を策定しつつある。
- (3) 「栃木県のこれからの社会教育」を考えるに際しても、現在は100年に一度とも言われる「大不況下」であることを認識した上で、栃木県経済の活性化と県民生活の向上、この大不況下でも一人ひとりの県民が人間の尊厳を保ちながら生き抜かれるような「社会教育」を目指すことが県民各層から求められると確信する。
- (4) そこで、従来栃木県社会教育委員会議の主要なテーマであった学校教育、家庭教育の側面的支援としての「社会教育」も更に充実させながら、困難なテーマではあるが、「大不況下の社会教育」のあるべき姿について調査・研究し、政策立案と提言をすることも、栃木県社会教育委員会議に課せられた社会的使命であると考えます。

2. 大不況下の社会教育を考える

- (1) 大不況下で最も人間の尊厳が毀損される可能性の高いのは、仕事を失った人と生活のために仕事に就きたくても仕事に就けない人であろうと推測される。
そこで、大不況下の社会教育の第一のテーマとして「就労支援のための社会教育」を取り上げることを提言したい。
- (2) 「知識基盤型社会」と言われる現代で求められるのは、高いスキル・高い仕事能力である。「集団的規律」と「質の高い職業訓練」を同時並行して行えてはじめて「生活できるだけの収入が得

られ、自己実現の可能な仕事(decent work ディーセント・ワーク)」に就く可能性が高まると考える。

(3) 今まで栃木県経済を支え、栃木県の県民平均所得全国第4位を達成した原動力ともなった輸出主導型の製造業からの失業者の皆様を、栃木県内の社会教育施設がその総力を挙げて、この大不況が終焉するまで「就労支援のための社会教育施設」として活用して頂くことをここに提言したい。

(4) ところで、「教育の質」を決定するのは、「カリキュラムの質」、「教師の質」、「マネジメントの質」の3つの要素と考える。栃木県内の全社会教育施設を活用しての「就労支援のための社会教育」を考える際にも、この3要素を考え抜き、制度の設計をすることが求められる。

(5) 失業中の方や就労を目指す方の多くは経済的な困難を伴う場合が多いと思われるので、「就労支援のための栃木県内の社会教育施設を活用しての社会教育」の授業料等の学費は、公的な負担で行うべきと考える。

また、教育の成果は、就労に際しての所謂(いわゆる)「ジョブ・カード」に記載できるよう周到な設計が求められる。

(6) ニート、フリーターの方々の中には、所謂「未就学(みしゅうがく)」(形式上、学校は卒業しているが所定の学力が身に付いていない)の方も多し。読み、書き、計算をはじめ学校教育で身に付けるべき学力や集団的規律を含む規範教育の再教育も社会教育として求められる。

(7) 超高齢化の下で社会の負荷にならない生き方として、自分に対する医療費や介護福祉費の少ない「いつまでも若々しく生きる」生き方が考えられる。心身ともに健康な状態で一生を全うできるような生き方を達成するための教育を、「栃木県内の社会教育施設をフル活用して栃木県独自の生涯教育、社会教育」として全県民の知恵を結集して本格的に取り組むことは、大不況下で厳しさを増す国や自治体の財政状況を考えると避けて通れない。「よく生きる」とは、「いつまでも若々しく生きる」ことであり、栃木県社会教育、生涯教育として最も目指すべきことと確信する。

3. おわりに - 栃木県内のすべての社会教育施設を活用して「持続教育(ESD, Education for Sustainable Development エディケーション・フォー・サステイナブル・デベロップメント)」の取り組みを

(1) 100年に一度という世界的な大不況の下で、一人ひとりの人生の成功と持続可能な社会の形成のために、「持続教育(ESD)」の重要性が国連を中心に国際社会では強調され、栃木県でもその具体的展開が求められている。新学習指導要領で示された「持続教育(ESD)」の具体的な展開の場として、すべての学校での展開と同時に、栃木県内のすべての社会教育施設のフル活用を提言したい。

(2)「持続教育(ESD)」の対象は、学校で学ぶ「児童・生徒・学生」に限らないことは言うまでもない。学校卒業後も、生涯にわたって学び続けることが「持続教育(ESD)」の本質と考える。「栃木県内の全社会教育施設を活用しての就労支援教育」も、「持続教育(ESD)」の重要な実質的内容として含まれると考える。

(3)但し、すべての前提は、365日1日も休むことなく早朝から夜の10時すぎまで栃木県内のすべての社会教育施設が使用可能になっていることである。最も大切なことは、機会の平等、つまりすべての県民に社会教育の機会を365日与えることである。職員の休日や労働時間を工夫して、栃木県内のすべての社会教育施設の365日稼働を提言する。社会教育ボランティアの活動を本格的に促進すれば、この実現は可能と考える。

県民の英知とエネルギーを結集して、この大不況期に即応した本格的な社会教育を展開しようではないか。

以上

- 2009年2月11日、サムソン研究所にて記す -